RICOH

G700SE

使用説明書（ソフトウェア編）

メモ

- 安全に正しくお使いいただくために、操作の前には必ず『安全上のご注意』をお読みください。
- Software CD-ROM からのインストール方法によって、インストールされるソフトウェアが異なります。詳しくは『使用説明書（カメラ編）』をご覧ください。
- Software CD-ROM を使用できる OS の環境については、『使用説明書（カメラ編）』をご覧ください。

使用説明書の構成について

G700SE には、次の 2 種類の使用説明書が付属しています。

1. カメラの使い方を知るには

『使用説明書（カメラ編）』
（冊子の使用説明書）

カメラの使い方や機能を説明しています。付属ソフトウェアをパソコンに入れる（インストール）方法についても説明しています。

2. 画像をパソコンに取り込むには

『使用説明書（ソフトウェア編）』
※本書（このファイル）です。

カメラの画像をパソコンに取り込む方法を説明しています。

3. パソコンで画像を表示するには

付属のソフトウェア MediaBrowser を使うと、画像を表示したり編集したりできます。
MediaBrowser の使い方については、MediaBrowser のヘルプを参照してください。
なお、MediaBrowser の最新の情報は、株式会社ピクセラのホームページ（http://www.pixela.co.jp/oem/mediabrowser/j/）を参照してください。

ソフトウェア編の読み方

画面について

画面例は実際の表示と異なる場合があります。

用語について

本書では、静止画と動画をまとめて「画像」または「ファイル」と呼んでいます。

マークについて

本書では次のマークを使って表記しています。

注意

操作上、守っていただきたい注意事項や制限事項です。

メモ

そのページに関する補足説明や、操作について知っておくと役に立つ事柄です。

参照

関連する機能のページを示しています。なお、本文中に参照ページを「☞P.xx」という表記で示している場合もあります。

用語説明

そのページで説明されている内容から、知っておいていただきたい用語をピックアップして解説しています。

目次

Chapter 1
画像をパソコンに取り込む（Windows 編）

ここでは、静止画や動画などの画像をパソコン（Windows）に取り込む方法について説明します。

画像を取り込む方法について

画像をパソコンに取り込むには、以下の２種類の方法があります。

1. DL-10 などの画像取り込みソフトウェアを使用せずに画像を取り込む（☞P.6）

カメラがドライブとして認識され、［マイコンピュータ］に表示されますので、画像を選択してコピーします。

2. DL-10 などの画像取り込みソフトウェアを使用して、画像を取り込む（☞P.7）

DL-10 を使用するには、DC Software をインストールする必要があります。インストール方法については、『使用説明書（カメラ編）』をご覧ください。

注意

- 画像の取り込み中は、電源をオフにしたりUSB ケーブルを抜いたりしないでください。ファイルが正常に書き込まれません。
- パソコンから SD メモリーカードや内蔵メモリーのフォーマットはしないでください。フォーマットを行う場合は、必ずカメラで操作してください。
- 必ず接続を解除してから USB ケーブルを取り外してください。
- Windows Vista の「Windows フォト ギャラリー」や Windows 7 の「Windows Live フォトギャラリー」を使用して画像をパソコンに取り込んだ場合、いったん取り込んだ画像を SD メモリーカードにコピーして本カメラにセットしても、本カメラでは表示できません。
- パソコンに接続できる弊社デジタルカメラは、1 台のみです。複数台の弊社デジタルカメラを同時にパソコンに接続しないようにしてください。

- DC Software では、従来機種に付属していた Caplio Software とはソフトウェアの名称が以下のように異なります。

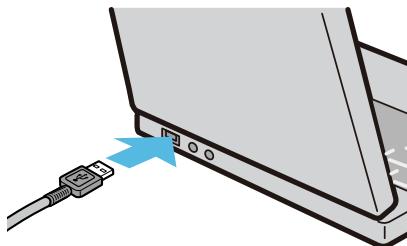
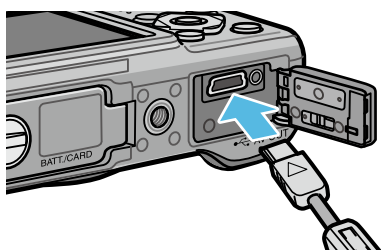
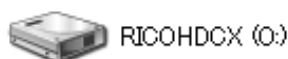
Caplio Software	DC Software
RICOH Gate La	DL-10
Caplio Viewer	DU-10
Caplio Server	SR-10
Caplio Setting	ST-10

メモ

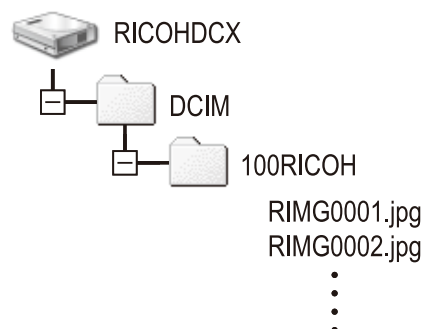
- カメラから画像を取り込むときは、十分に残量がある電池をセットしてください。または、AC アダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- SD メモリーカードがセットされているときはカードから画像を取り込み、SD メモリーカードがセットされていないときはカメラ本体の内臓メモリーから画像を取り込みます。
- CD-ROM に含まれているソフトウェアを使用できるのは、Windows のみです。

DL-10を使用せずに画像を取り込む

1. **カメラの電源がオフになっていることを確認する**

2. **付属のUSBケーブルをパソコンのUSBポートに接続する**

3. **USBケーブルをカメラのUSB端子に接続する**

カメラの電源がオンになります。準備が終わると、［マイ コンピュータ］にドライブとして表示されます。

Windows XPでの表示例

4. **表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする**

ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。

内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は［RICOHDCI］になります。

メモ

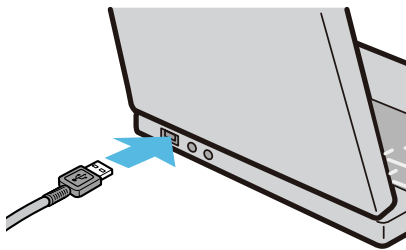
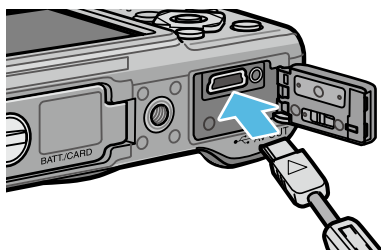
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。
- DC Softwareをインストールしている場合は、DL-10の［オプション設定］ダイアログボックスで［USB接続時、自動保存を行う］のチェックマークを外してください。

DL-10 を使用して画像を一括で取り込む

DL-10 は［マイ ドキュメント］フォルダの中に自動的に［Digital Camera］フォルダを作成します。取り込んだ画像は、撮影日ごとのフォルダに入れて［Digital Camera］フォルダ内に保存されます（Caplio Software を使用していた場合は、引き続き［Caplio］フォルダ内に保存されます）。

あらかじめカメラで正しい日時を設定してから撮影してください。

1. **カメラの電源がオフになっていることを確認する**

2. **付属の USB ケーブルをパソコンの USB ポートに接続する**

3. **USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する**

カメラの電源がオンになり、DL-10 が起動して、DL-10 のウィンドウが表示されます。

自動的に画像の転送が開始されます。

画像の転送が始まらない場合は、以下の操作をお試しください。

- DL-10 のウィンドウの［保存］ボタンをクリックする
- パソコンを再起動して 1 ～ 3 の操作をもう一度行う
- DL-10 の［オプション設定］ダイアログボックスで［USB 接続時、自動保存を行う］にチェックマークが付いているか確認する

注意

- DL-10 の［オプション設定］で［保存時、同じ画像は保存しない］にチェックマークを付けている場合（☞P.11）は、一度に転送可能な画像は 999 ファイルまでです。1000 ファイル以上を一度に転送しようとした場合は、999 ファイルまで転送し、残りのファイル数がダイアログに表示されるので、［OK］をクリックしてください。その後 DL-10 のウィンドウの［保存］ボタンをクリックするか、USB ケーブルを接続し直すと、1000 ファイル目以降が転送されます。
- DL-10 での画像の取り込み中（［データを取得中です］が表示されている間）は、カメラの電源をオフにしたり、USB ケーブルを抜いたりしないでください。

メモ

- パソコンに転送する際は、新しいファイル名に置き換えられて連番で保存されます。カメラ側で付けられたファイル名は利用しません。
- 保存フォルダが変わっても、ファイル名は続けて連番になります。番号の初期化はできません。
- DL-10 を通じてパソコンに転送した場合は、［カード連続 NO.］を［ON］にしていても、ファイル名は［RIMG****.jpg］（**** は番号）で保存されます。

参照

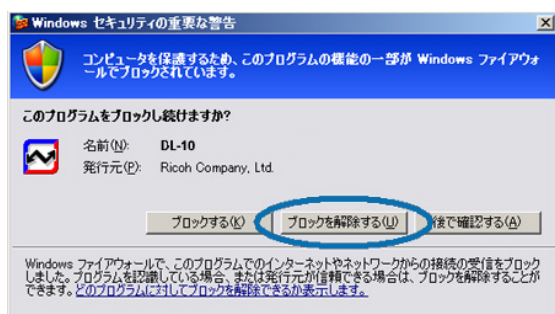
- DL-10 の詳しい使い方について ☞P.9
- DL-10 の［オプション設定］ダイアログボックスについて ☞P.11
- カメラとパソコンの接続を解除する方法について ☞P.9

Windows XP Service Pack3、Windows Vista Service Pack2 での警告メッセージについて

Windows XP Service Pack 3 または Windows Vista Service Pack 2 がインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB 接続時）などに以下のような警告メッセージが表示される場合があります。以下を参考にし、設定を変更してください。

ここでは Windows XP の画面例を使用しています。

警告メッセージが表示された場合

名前、発行元を確認し［ブロックを解除する］ボタンをクリックしてください。

注意

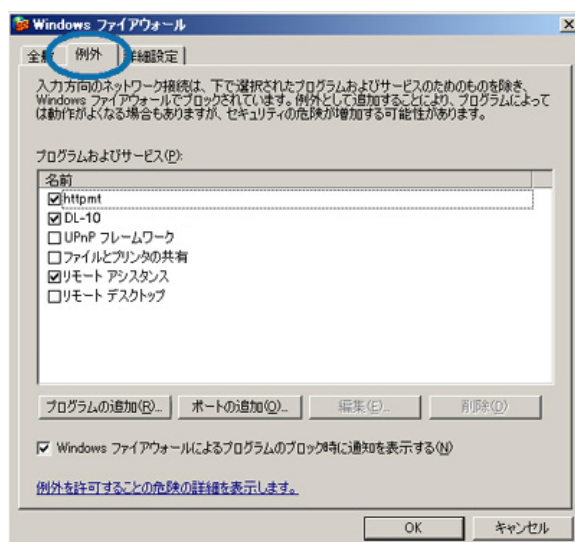
プログラムの名前や発行元に心当たりがない場合は、ウイルスプログラムである可能性がありますので、［ブロックする］をクリックしてください。ブロックすると、そのプログラムによる外部からの接続が利用できなくなります。

［ブロックする］ボタンをクリックした場合

Windows ファイアウォールの設定を確認します。

1. **［スタート］→［コントロールパネル］の順にクリックする**
2. **［Windows ファイアウォール］をダブルクリックする**

［Windows ファイアウォール］がない場合はウィンドウ左上の［クラシック表示に切り替える］をクリックしてください。

3. **［例外］タブをクリックする**

4. **［プログラムおよびサービス］内で「DL-10」にチェックを入れる**
5. **［OK］ボタンをクリックする**

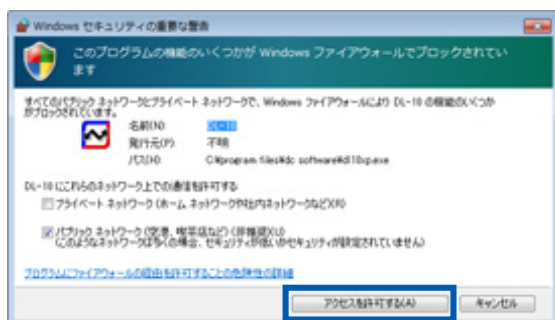
［後で確認する］ボタンをクリックした場合

プログラムを起動するたびに、［Windows セキュリティの重要な警告］ウィンドウが表示されるので、その際に［ブロックを解除する］を選択できます。

Windows 7 での警告メッセージについて

Windows 7 がインストールされたパソコンで、弊社デジタルカメラ用ソフトの使用時（ソフト起動時、USB 接続時）などに以下のような警告メッセージが表示される場合があります。

警告メッセージが表示された場合

名前、発行元を確認し［アクセスを許可する］ボタンをクリックしてください。

カメラとパソコンの接続を解除する

カメラとパソコンの接続を解除する場合は、以下のように操作してください（表示は Windows XP の例です。他の OS では用語やアイコンが異なりますが、操作は同じです）。

1. タスクバーの右端にある［ハードウェアの安全な取り外し］アイコンをクリックする

・Windows 7 でアイコンが見つからない場合、タスクバーの ボタンをクリックしてください。

2. ［USB 大容量記憶装置デバイス - ドライブ（E:）* を安全に取り外します］を選んでクリックする

＊ドライブの表示は、ご使用のパソコンによって異なります。

3. USB ケーブルを外す

メモ

・接続を解除しないで USB ケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。
・画像の転送中に USB ケーブルを外さないでください。転送終了を必ず確認し、接続を解除してから USB ケーブルを取り外してください。

DL-10 の詳しい使い方

DL-10 の起動・終了方法

起動について

DL-10 は、DC Software をインストールするとインストールされます。

カメラとパソコンを USB ケーブルで接続すると、自動的に起動し、画像を取り込みます。

終了するには

DL-10 を終了するには、次の 2 種類の操作方法があります。

・DL-10 ウィンドウの［MENU］ボタンをクリックしてメニューを表示し、［終了］を選択する（「DL-10 のウィンドウ」を参照）
・タスクバーの DL-10 のアイコンを右クリックしてメニューを表示し、［終了］を選択する

再起動するには

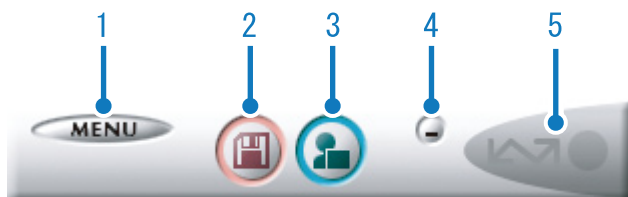
一度終了した後、DL-10 を再度起動したい場合は、次のように操作します。

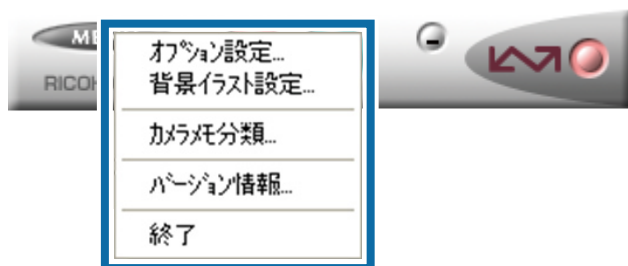
・［スタート］メニューから［すべてのプログラム］または［プログラム］→［DC Software］→［DL-10］を選択する

注意

DL-10 はネットワーク環境には対応していません。スタンドアローンとしてご使用ください。

DL-10 のウィンドウ

DL-10 が起動すると、パソコンの画面上に次のような DL-10 のウィンドウが表示されます。

1［MENU］ボタン

クリックすると次のメニューが表示されます。

［オプション設定］	画像の保存先や、保存後および［アプリケーション］ボタンを押したときに起動するアプリケーションを設定します（☞P.11）。
［背景イラスト設定］	DL-10 のウィンドウの背景デザインを変更します（☞P.12）。
［カメラメモ分類］	カメラメモ（☞P.19）の有無や内容によって画像の保存先を設定し、画像を転送できます（☞P.12）。
［バージョン情報］	DL-10 のバージョンを表示します。
［終了］	DL-10 を終了します。

2［保存］ボタン

クリックするとカメラから画像を取り込みます。

注意

カメラの液晶モニターに、［接続待ち・・・ダイレクトプリントを行うときには ADJ. ボタンを押してください］と表示されている間は、［保存］ボタンを押さないでください。

3［アプリケーション］ボタン

［オプション設定］で登録されたアプリケーションを起動します。

4［最小化］ボタン

ウィンドウを最小化して Windows のタスクバー上にアイコン表示します。アイコンをクリックすると、ウィンドウが表示されます。

5 インジケータ

カメラが USB ケーブルで接続されていると、「インジケータ」が点灯します。このとき「インジケータ」にマウスポインタを合わせると、［カメラ接続中］と表示されます。接続されていないときには、「インジケータ」はグレー表示され、マウスポインタを合わせても、［カメラ接続中］は表示されません。

［オプション設定］の使い方

DL-10のウィンドウにある［MENU］ボタンで表示したメニューから［オプション設定］を選ぶと、［オプション設定］ダイアログボックスが表示されます。

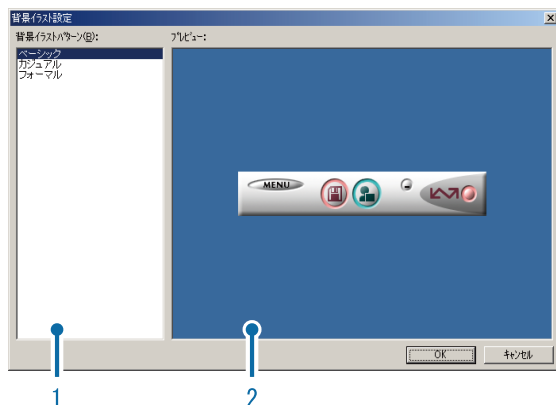
注意

Caplio Softwareがインストールされていた場合は、Caplio Softwareをアンインストールすると、RICOHGate La/DL-10の［オプション設定］の設定内容は解除される場合があります。

	項目	説明	初期値
1	USB接続時、自動保存を行う	チェックマークを付けると、カメラとパソコンがUSBケーブルで接続されたときに、自動的に画像がパソコンに取り込まれて保存されます。チェックマークを消すと、カメラを接続しても自動的に画像が取り込まれません。この場合は、手動でDL-10を起動し、［保存］ボタンをクリックして画像を取り込みます。	自動保存を行う
2	保存先フォルダ	画像を保存するフォルダを指定します。ご購入時は［マイ ドキュメント］フォルダ内の［Digital Camera］フォルダに設定されています。変更したい場合は、［参照］ボタンをクリックしてダイアログボックスを表示し、画像を保存したいフォルダを選択します。	——
3	フォルダ作成	フォルダの作成方法を指定します。 ［作成しない］ 取り込んだ画像を、すべて「2 保存先フォルダ」で指定されているフォルダ内に保存します。 ［撮影日毎］ 撮影日ごとにフォルダを新規作成し、撮影した画像を保存します。 例）2010年1月1日に撮影した場合：［20100101］フォルダ ［保存毎］ 保存毎にフォルダを新規作成して、画像を保存します。1日に複数回保存を行った場合には、そのたびに別のフォルダに保存されます。 作成されるフォルダ名は、「保存日付＋アンダーバー＋3桁の連番」になります。 例）2010年1月1日に2回保存した場合：［20100101_001］フォルダ、［20100101_002］フォルダ	撮影日毎にフォルダを作成する
4	保存時、同じ画像は保存しない	チェックマークを付けると、一度カメラからパソコンへ取り込みを行った画像は取り込みません。［フォルダ作成］の設定を［作成しない］または［撮影日毎］にしたときのみ指定できます。チェックマークを消すと、一度取り込みを行った画像も再度取り込みます。 この機能を正しく働かせるには、カメラの日時設定を正しく設定する必要があります。 ※Caplio Softwareを使用していた場合は、RICOH Gate Laで取り込み済みの画像がSDメモリーカードに残っていると、DL-10の［オプション設定］で［保存時、同じ画像は保存しない］にチェックマークが付いていても、画像は再度取り込まれます。	同じ画像は保存しない
5	アプリケーションソフト設定	保存後にアプリケーションを起動したい場合に、アプリケーションを指定します。［参照］ボタンをクリックしてダイアログボックスを表示し、指定したいアプリケーションを選択します。	——
6	保存後、アプリケーションソフトを起動する	チェックマークを付けると、保存後にアプリケーションを起動します。チェックマークを消すと、起動しません。	アプリケーションを起動する
7	カメラIPアドレス	本カメラでは使用しません。他のCaplioシリーズのカメラをお使いの場合に使用します。詳しくは、そのカメラの使用説明書を参照してください。	0.0.0.0

[背景イラスト設定] の使い方

3 種類のイラストパターンから、DL-10 のウィンドウの背景イラストを選択できます。

[MENU] ボタンで表示したメニューから [背景イラスト設定] を選ぶと、[背景イラスト設定] ダイアログボックスが表示されます。

1 [背景イラストパターン]

3 種類のイラストパターンから、使いたいパターンを選択します。

ベーシック

カジュアル

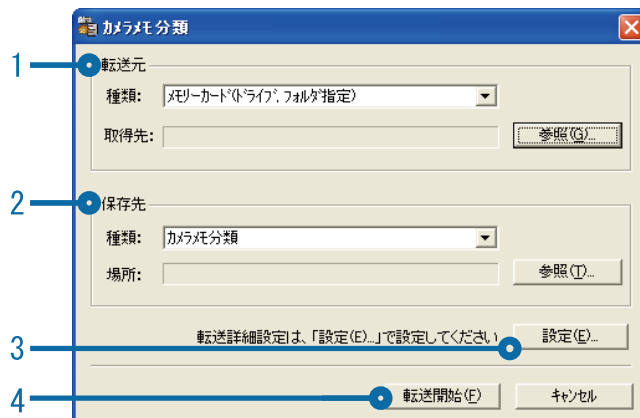
フォーマル

2 [プレビュー]

[背景イラストパターン] で選択したパターンが表示され、確認できます。

[カメラメモ分類] の使い方

カメラメモの有無や内容によって画像の保存先などを設定し、画像を転送できます。

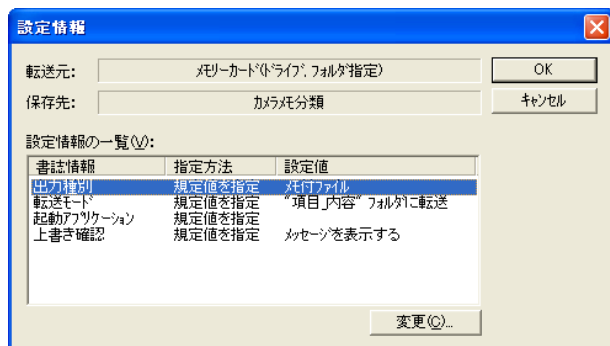
[MENU] ボタンで表示したメニューから [カメラメモ分類] を選ぶと、[カメラメモ分類] ダイアログボックスが表示されます。

1 [転送元]

[種類] で画像の転送元を [メモリーカード (ドライブ、フォルダ指定)] または [Digital Camera] から選択できます。[メモリーカード (ドライブ、フォルダ指定)] を選択した場合、[参照] ボタンをクリックして、転送元のフォルダを指定できます。

2 [保存先]

[参照] ボタンをクリックして、保存先のフォルダを指定できます。[種類] は変更できません。

3［設定］ボタン

設定情報ダイアログが表示され、転送の詳細設定を変更できます。各項目の内容を変更するには、項目を選択して［変更］ボタンを押すか、項目をダブルクリックします。

［上書き保存］（［転送元］が［Digital Camera］の場合のみ）	一度取り込みを行った画像を再度取り込むかどうかを選択できます。［同じ画像は保存しない］を選択した場合、一度取り込みを行った画像は取り込みません。
［出力種別］（［転送元］が［メモリーカード］の場合のみ）	転送する際にすべての画像を転送するか、カメラメモが付いた画像のみを転送するかを選択できます。
［転送モード］	転送先フォルダに作成するサブフォルダの名称を、「項目名_内容」の形式にするか「内容」の形式にするかを選択できます。
［起動アプリケーション］	転送終了後に起動するアプリケーションを指定できます。
［上書き確認］	転送先に同じ名前のファイルが存在した場合、上書き確認のダイアログを表示するかどうかを選択できます。確認しない場合、メッセージを表示せず自動的に上書きされます。［転送元］として［Digital Camera］を選択した場合、［上書き保存］で［同じ画像を保存する］に設定したときのみ上書き確認ダイアログが表示されます。

4［転送開始］ボタン

画像の転送を開始します。［カメラメモ分類］機能を使用する場合、必ず［転送開始］ボタンを押して画像を転送してください。

メモ

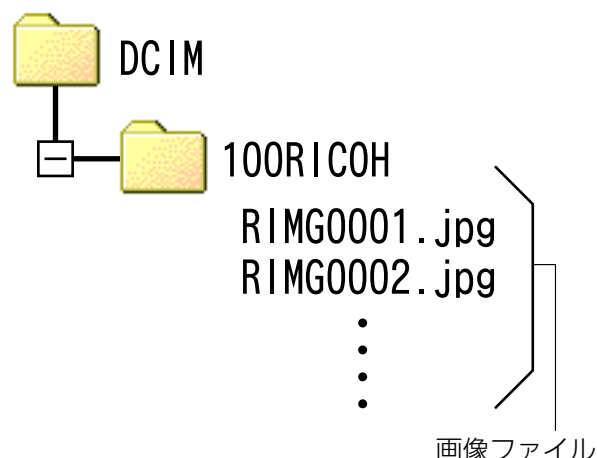
カメラメモの［分類項目］や［カメラメモ内容］に禁則文字（¥、/、:、?、*、"、<、>、|）が使用されていると、禁則文字を「_」（アンダーバー）に置換した名前のフォルダが作成されます。

SD メモリーカードから画像を取り込む

PC カードスロットやカードリーダーを使って、SD メモリーカードからパソコンへ画像を取り込めます。

SD メモリーカード内の画像

SD メモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。

注意

カメラやカードリーダーをパソコンに接続し、SD メモリーカード内の画像を直接パソコンで表示・編集・保存などした場合、その画像がカメラで再生できなくなることがあります。表示・編集・保存などは、画像をパソコンに取り込んだ後に行ってください。

用語説明

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読み取るための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、各種のカードに対応したカードリーダーがあります。

Chapter 2
画像をパソコンに取り込む（Macintosh 編）

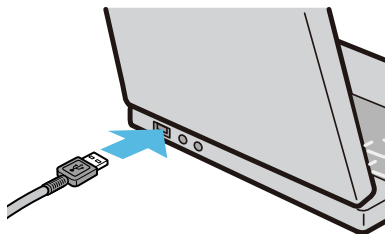
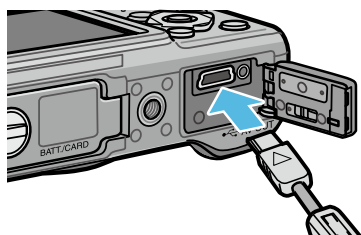
ここでは、静止画や動画などの画像をパソコン（Macintosh）に取り込む方法について説明します。

注意

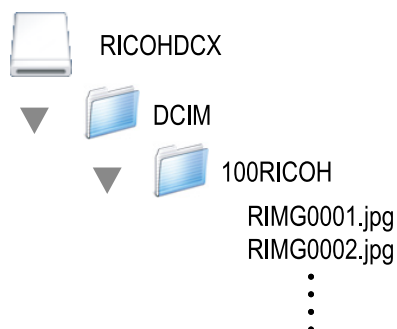
Macintosh では、CD-ROM に含まれているソフトウェアは使用できません。『使用説明書（ソフトウェア編）』を表示することはできます。Mac OS 9 環境の場合、『使用説明書（ソフトウェア編）』を表示するには Acrobat Reader がインストールされている必要があります。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1. **カメラの電源がオフになっていることを確認する**

2. **付属の USB ケーブルをパソコンの USB ポートに接続する**

3. **USB ケーブルをカメラの USB 端子に接続する**

カメラの電源がオンになります。カメラをドライブとして認識するために必要なファイルが自動的に読み込まれます。準備が終わると、デスクトップにドライブとして表示されます。

4. **表示されたドライブから、任意の場所にファイルをコピーする**

ドライブのフォルダ構成は図のようになっています。

内蔵メモリーの内容が表示されているときは、ドライブ名は [RICOHDCI] になります。

注意

- 画像の取り込み中は、電源をオフにしたり USB ケーブルを抜いたりしないでください。ファイルが正常に書き込まれません。
- パソコンから SD メモリーカードや内蔵メモリーのフォーマットはしないでください。フォーマットを行う場合は、必ずカメラで操作してください。
- 必ず接続を解除してから USB ケーブルを取り外してください。
- パソコンに接続できる弊社デジタルカメラは、1 台のみです。複数台の弊社デジタルカメラを同時にパソコンに接続しないようにしてください。

メモ

- カメラから画像を取り込む場合は、十分に残量がある電池をセットしてください。または、AC アダプター（別売り）のご使用をお勧めします。
- 取り込み先に同じファイル名のファイルがある場合は、上書きされます。上書きしたくない場合は、別のフォルダに取り込むか、取り込み先フォルダにあるファイルのファイル名を変更してください。
- 表示される内容は、SD メモリーカードがセットされているときは SD メモリーカードのファイル、SD メモリーカードがセットされていないときは内蔵メモリーのファイルです。

カメラとパソコンの接続を解除する

1. **表示されたドライブまたはボリュームのアイコンを「ゴミ箱」アイコンにドラッグアンドドロップする**

管理者パスワードを要求する画面が表示された場合は、パスワードを入力します。

2. **USB ケーブルを外す**

メモ

- Mac OS 9 の場合は［特別］メニューで、Mac OS X の場合は［ファイル］メニューで［取り出し］を選択しても接続を解除できます。
- 接続を解除しないで USB ケーブルを外すと、デバイスの取り外しの警告画面が表示される場合があります。必ず接続を解除してから USB ケーブルを取り外してください。
- 画像の転送中に USB ケーブルを外さないでください。必ず転送終了を確認し、接続を解除してからケーブルを取り外してください。
- Macintosh に接続すると、SD メモリーカードに「FINDER.DAT」「.DS_Store」ファイルが書き込まれる場合があり、カメラでは［表示できないファイルです。］と表示されます。このファイルは SD メモリーカードから消去しても問題ありません。

SD メモリーカードから画像を取り込む

PC カードスロットやカードリーダーを使って、SD メモリーカードからパソコンへ画像を取り込めます。

SD メモリーカード内の画像

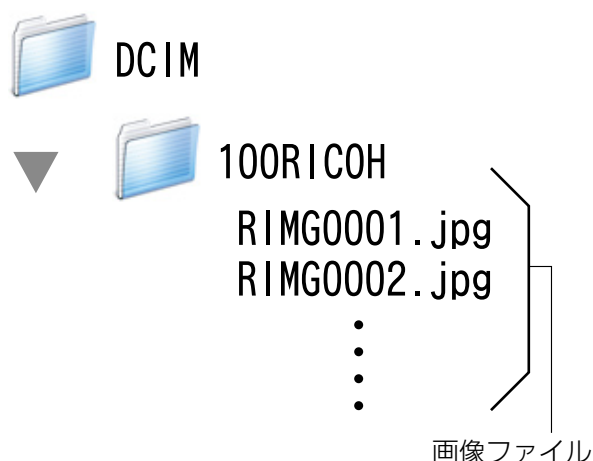
SD メモリーカードには、図のような階層で画像が記録されています。

DCIM

100RICOH

RIMG0001.jpg
RIMG0002.jpg
・
・
・
・

画像ファイル

注意

カメラやカードリーダーをパソコンに接続し、SD メモリーカード内の画像を直接パソコンで表示・編集・保存などした場合、その画像がカメラで再生できなくなることがあります。表示・編集・保存などは、画像をパソコンに取り込んだ後に行ってください。

用語説明

カードリーダー

パソコンに接続して、カードの内容を読み取るための機器です。メモリーカードアダプタータイプの他に、各種のカードに対応したカードリーダーがあります。

Chapter 3
EC1 の使い方

EC1 は、画像加工検知ソフトウェアです。G700SE で撮影した静止画が、撮影後に加工・編集されているかどうかを検知して表示することができます。

注意

EC1 で画像加工検知を行うには、カメラの撮影設定メニューで［画像加工検知］を［ON］に設定してから撮影し、画像をパソコンに取り込む必要があります。

画像加工検知を行う

カメラで［画像加工検知］を［ON］に設定して静止画を撮影し、画像をパソコンに取り込むと、EC1 で画像加工検知を行うことができます。

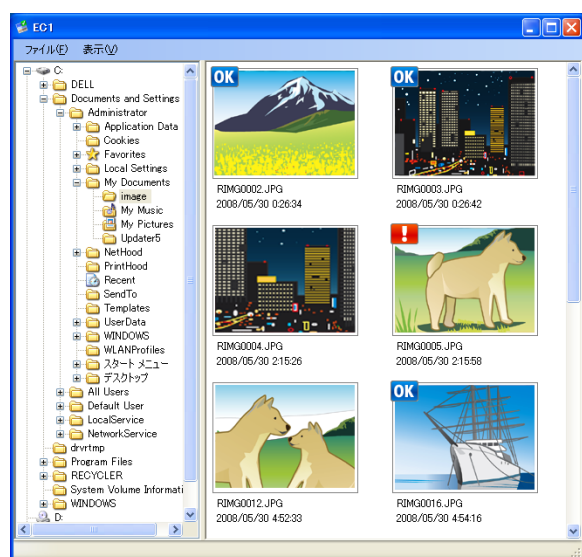
1. **カメラの撮影設定メニューで［画像加工検知］を［ON］に設定し、静止画を撮影する**

操作手順は、『使用説明書（カメラ編）』を参照してください。

2. **撮影した静止画をパソコンに取り込む**

3. **Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［EC1］→［EC1］を選択して起動する**

4. **EC1 のフォルダビューで、取り込んだ画像のフォルダを選択する**

選択したフォルダ内の JPEG 画像が読み込まれ、読み込みが完了した画像がサムネイル表示ビューに表示されます。

フォルダビュー　　サムネイル表示ビュー

- 撮影後に加工・編集されていない画像には OK が表示されます。
- 撮影後に加工・編集された画像には ! が表示されます。
- ［画像加工検知］を［OFF］に設定して撮影した画像や、画像加工検知ができない画像には、いずれのアイコンも表示されません。
- サムネイル表示ビューの画像をダブルクリックすると、関連付けられたビューワソフトで画像を開くことができます。
- フォルダ名の先頭または最後にスペースが使用されているフォルダを選択すると、メッセージが表示され、画像は表示されません。

注意

- 画像加工検知を行うことができるのは、画像加工検知機能のあるカメラで撮影した静止画のみです。
- カメラの再生モードで［画像サイズ変更］、［階調補正］、［斜め補正］を行った画像は、加工・編集された画像とみなされます。
- パソコンへ画像を取り込むときは、Chapter1 に記載されている方法で取り込んでください。これ以外の方法で画像を取り込んだ場合は、撮影後に画像の加工・編集を行っていなくても、加工・編集された画像とみなされることがあります。例えば、Windows Vista の「Windows フォトギャラリー」や Windows 7 の「Windows Live フォトギャラリー」を使用して画像をパソコンに取り込んだ場合は、取り込む際に画像の撮影情報が一部編集されるため、EC1 では加工・編集された画像とみなされます。
- 画像を取り込んだ後に、パソコンで画像または画像のプロパティを閲覧して保存・終了した場合は、閲覧に使用したソフトウェアによっては、加工・編集された画像とみなされることがあります。

参照

- EC1 のインストール方法について
  ☞『使用説明書（カメラ編）』
- 画像をパソコンに取り込む方法について ☞P.5

フォルダの内容を最新の状態へ更新する

フォルダを追加・削除したり、フォルダの内容を変更したりした場合は、［表示］メニューで［最新の情報に更新］を選択してください。フォルダビューとサムネイル表示ビューの内容が最新の状態に更新されます。

Chapter 4
カメラメモを付けて撮影する

静止画には、カメラメモ（撮影内容などに関する情報）を付けて撮影することができます。
ここでは、カメラメモについて説明します。

注意

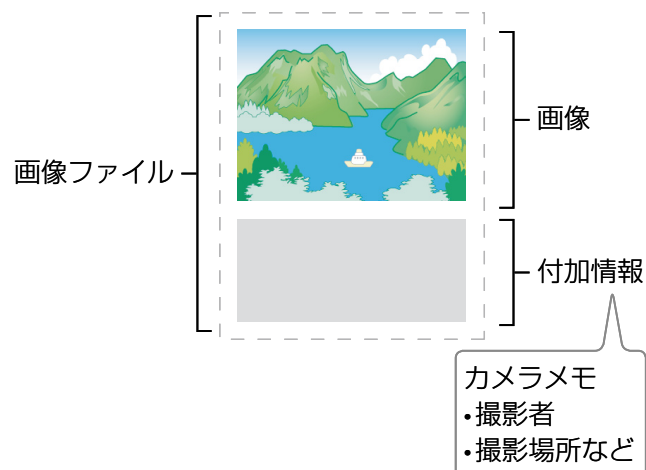
- 必ずカメラ本体の日時を設定してください。
- カメラメモ機能を使うには、DC Software のインストールが必要になります。
- SD WORM カード使用時は、カメラメモ機能を使用できません。
- カメラメモ機能は、Windows でのみご使用になれます。

メモ

パソコンで静止画に付けたカメラメモを表示確認／修正する場合は、ME1（☞P.40）を使います。

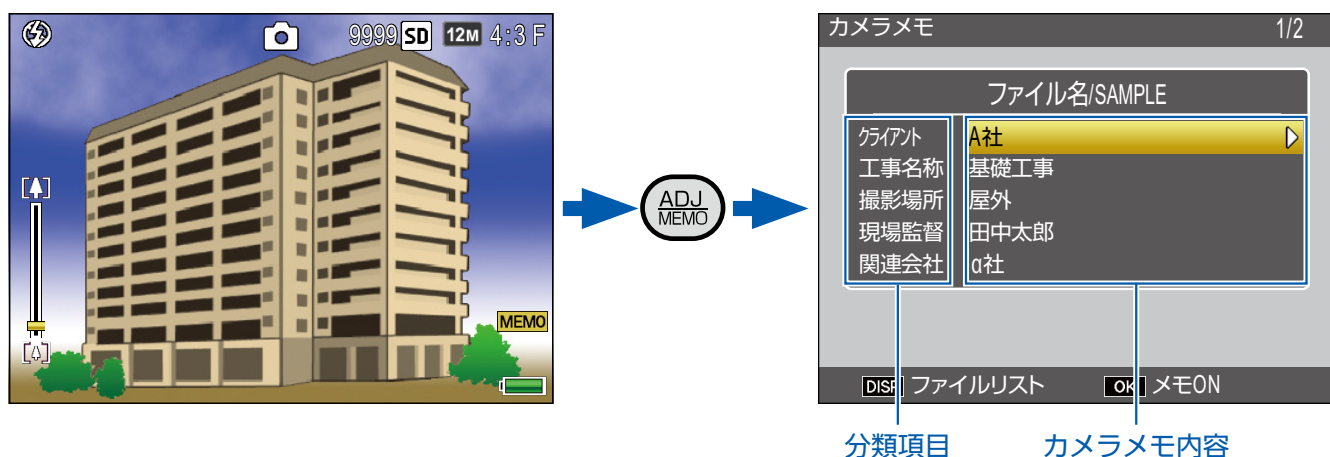
Section 1
カメラメモについて

カメラメモとは

カメラで撮影した画像ファイルには、情報を付加できる領域があります。この領域を使って静止画に関するメモを付加できるようにしたのが、カメラメモ機能です。
カメラメモを付加することによって、静止画の識別や分類が簡単に行えます。

メモ

- 動画にはカメラメモを付加できません。
- 撮影設定メニューの［オートブラケット］で［ON］または［WB-BKT］を選択している場合は、カメラメモは付加できません。

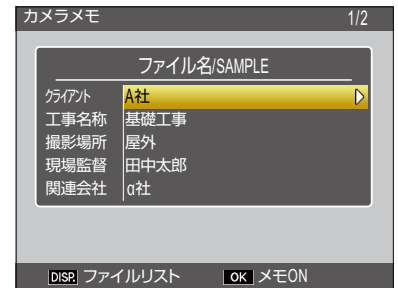
カメラメモの構成

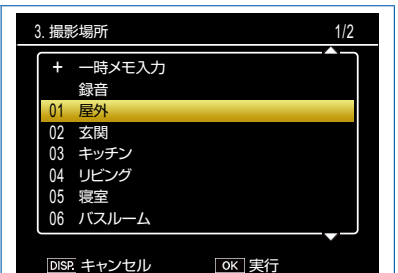
カメラメモには、メモの項目として設定する「分類項目」と、それぞれの分類項目に対するメモとして使用する「カメラメモ内容」があります。
カメラメモを付加して静止画を撮影するには、ADJ./MEMO ボタンを押して表示される［カメラメモ］画面で、各分類項目に対するカメラメモ内容をあらかじめ設定しておきます。

カメラメモの使い方の流れ

1. パソコンでカメラメモリストを作成して、カメラに転送する（☞P.23）

付属のソフトウェア List Editor を使用して、「分類項目」と各分類項目の「カメラメモ内容」を登録したカメラメモリストファイル（.mta）を作成し、カメラに転送します。

2. カメラメモ付き撮影をする（☞P.27）

- ADJ./MEMO ボタンを押すと、［カメラメモ］画面が表示され、カメラメモ内容が設定できます（☞P.27）。
- MENU/OK ボタンを押すと、カメラメモの内容が確定します。
- 撮影後、カメラメモを変更することもできます（☞P.29）。
- カメラメモ内容として設定できる形式は、以下のものがあります。

1.文字データ（☞P.23）

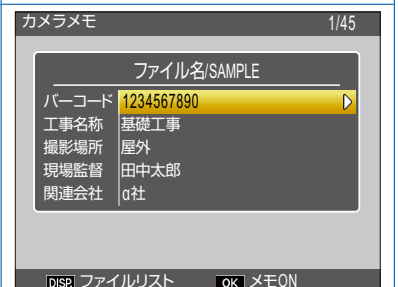
List Editor であらかじめ設定した文字列を選択します。カメラメモ内容は最大 99 個まで登録できます。

2.一時メモ（☞P.30）

カメラメモ内容に登録されていない情報をメモに使用したい場合は、カメラで一時的にメモを作成できます。一時メモの内容はカメラには保存されず、カメラの電源をオフにすると消去されます。

3.音声メモ（☞P.33）

最大 30 秒間カメラで音声を録音できます。

4.バーコードデータ（☞P.36）

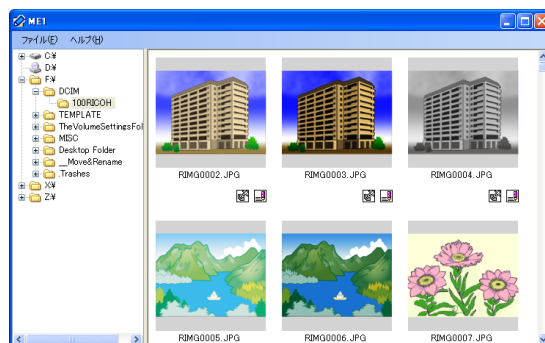
カメラでバーコードを読み込み、取得したテキストデータを一時メモに登録できます。

5.画像（☞P.38）

カメラメモリスト作成時に、カメラメモ内容として静止画のファイル名を指定すると、その静止画を参照画像として設定できます。静止画はあらかじめ内蔵メモリーまたは SD メモリーカードにコピーしておく必要があります。

3. 静止画をパソコンへ転送する（☞P.5）

付属のソフトウェアのDL-10を使用してパソコンに静止画を転送します。

4. 付属のソフトウェアME1でカメラメモを表示・編集する（☞P.40）

付属のソフトウェアME1を使用すると、静止画を一覧で表示できます。カメラメモの内容を編集したり、音声メモを再生したりできます。

メモ

- カメラメモリストファイルがSDメモリーカードまたは内蔵メモリーに保存されている場合、常に静止画にカメラメモが付加されます。
- 各付属ソフトウェアのインストール方法については、『使用説明書（カメラ編）』を参照してください。
- 付属のソフトウェアはすべてWindowsにのみ対応しています。

Section 2
カメラメモリストを作成して転送する

カメラメモリストを作成する

カメラメモリストは、付属のソフトウェア List Editor で作成します。

カメラメモリストを作成するときには、まず分類項目を作成し、その中にカメラメモ内容を登録していきます。

分類項目は、最大 20 項目まで作成できます。各分類項目内には、最大 99 個までのカメラメモ内容が登録できます。

メモ

- 他のアプリケーションで作成した CSV 形式のカメラメモリストファイルを List Editor に読み込んで SD メモリーカードに保存し、カメラで使用することもできます。
- CSV 形式のカメラメモリストファイルを List Editor に読み込むには、List Editor の［ファイル］メニューで［開く］を選択してファイル名を指定します。

List Editor の起動・終了方法

起動について

［スタート］メニューから［すべてのプログラム］または［プログラム］→［DC Software］→［List Editor］を選択します。

終了するには

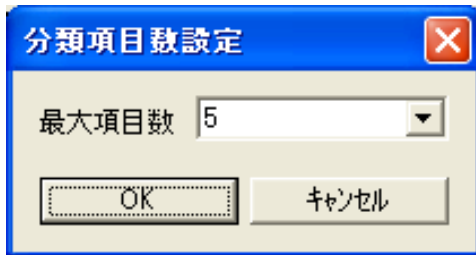
ウィンドウの右上端にある［×］（閉じる）ボタンをクリックするか、または［ファイル］メニューで［終了］を選択します。

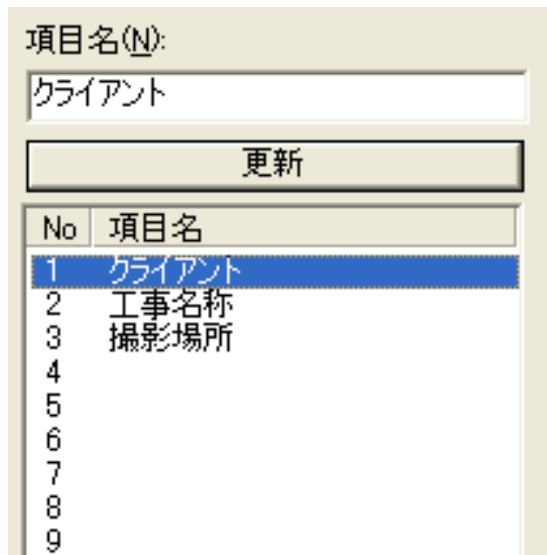
List Editor 画面の見方

	項目	説明
1	メニューバー	カメラメモリストの保存や編集、カメラへの転送などができます。
2	ツールバー	メニューで行える機能の中から主なものがアイコンで表示され、クリックだけで簡単に機能を使用できます。 **新規作成** 新しいカメラメモリストを作成するための画面を開きます。 **開く** パソコンに保存されているカメラメモリストを開きます。 **上書き保存** カメラメモリストをパソコンに保存します。 **切り取り / コピー / 貼り付け** 選択されている文字を切り取り／コピー／貼り付けします。 **カメラへ転送** カメラメモリストファイルをカメラの SD メモリーカードまたは内蔵メモリー内の［TEMPLATE］フォルダに転送します。
3	項目名（☞P.24）	カメラメモリストの「分類項目」を設定します。分類項目数は［ファイル］メニューの［分類項目数設定］から選択できます。選択できる項目数は 20、10、5 です。
4	内容（☞P.24）	各分類項目の「カメラメモ内容」を設定します。

List Editor の使い方

カメラメモリストファイルには、分類項目を最大 20 項目まで登録できます。各分類項目には、カメラメモ内容を最大 99 個まで登録できます。

1. ［ファイル］メニューの［分類項目数設定］から最大分類項目数を選択する

- 最大項目数は［5］、［10］、［20］から選べます。初期設定値は［5］です。
- 分類項目数は後から変更することもできます。すでに作成した分類項目数よりも最大項目数を少なく変更した場合、最大項目数以上の分類項目は削除されます。

2. ［項目名］に分類項目を入力する

- 項目 No. をクリックし、［項目名］に文字を入力します。［更新］ボタンをクリックすると、入力した文字列が項目名に反映されます。
- すでに入力した分類項目も、上記の手順で修正できます。

注意

- 分類項目に入力できる文字は半角 20 文字（全角 10 文字）までです。
- 文字列「¥、/、:、?、*、"、<、>、|」を分類項目として入力することはできません。

3. ［内容］に各分類項目のカメラメモ内容を入力する

［項目名］で分類項目を選択すると、カメラメモ内容の入力や編集が行えます。

- ［入力］にカメラメモ内容を入力し、［追加］ボタンをクリックすると、［入力一覧］の最後にカメラメモ内容が追加されます。
- ［入力一覧］でカメラメモ内容をクリックしてから各ボタンをクリックすると、以下の変更が行えます。

  ［編集］ボタン

  文字を修正できます。

  ［削除］ボタン

  選択したカメラメモ内容を削除します。

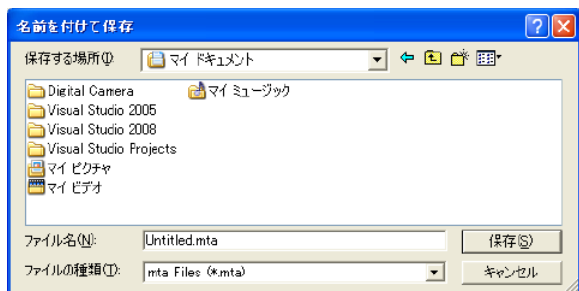
  ［上へ］/［下へ］ボタン

  カメラメモ内容の順番を変更できます。

注意

- カメラメモ内容に入力できる文字は半角 32 文字（全角 16 文字）までです。
- 文字列「¥、/、:、?、*、"、<、>、|」をカメラメモ内容として入力することはできません。

4. 手順 2、3 を繰り返して分類項目とカメラメモ内容の登録を行う

5. ［ファイル］メニューの［名前を付けて保存］でカメラメモリストファイルを保存する

- ［ファイルの種類］が［mta Files (*.mta)］になっていることを確認します。CSV ファイルとして保存することもできますが、カメラでカメラメモリストとして使用するには mta ファイルで保存してください。
- ファイル名は半角 8 文字（全角 4 文字）以内で入力してください。
- カメラメモリストのファイル名は、日本語または ASCII 文字で入力してください。それ以外の文字は、カメラで表示できません。
- 保存場所を選択してファイル名を入力し、［保存］ボタンをクリックして保存します。
- 保存しなくてもカメラに転送できますが、念のためパソコンに保存しておくことをお勧めします。

メモ

パソコンに保存したカメラメモリストファイルを修正する場合、［ファイル］メニューの［開く］でカメラメモリストファイルを開きます。修正後は［ファイル］メニューの［上書き保存］を選ぶか、ツールバーの［上書き保存］を押して上書き保存します。

カメラメモリストファイルをカメラに転送する

カメラメモリストファイルをカメラに転送するには、List Editor から転送する方法と、カードリーダーで転送する方法の 2 種類があります。

List Editor から転送する

1. List Editor が起動している状態で、カメラとパソコンを接続する

- 詳しい接続方法は P.6 を参照してください。
- DL-10 が起動した場合は終了してください（☞P.9）。

2. ツールバーの［カメラへ転送］アイコンをクリックするか、または［ツール］メニューで［カメラへ転送］を選択する

SD メモリーカードがセットされているときは SD メモリーカードの［TEMPLATE］フォルダ、セットされていないときは内蔵メモリーの［TEMPLATE］フォルダに転送されます。

注意

SD メモリーカードに［TEMPLATE］フォルダがない場合、転送できません。カメラで初期化された SD メモリーカードを使用してください。

3. ［OK］ボタンをクリックする

4. ［ファイル］メニューの［終了］を選択して List Editor を終了する

ウィンドウの右上端にある［×］（閉じる）ボタンをクリックしても、List Editor を終了できます。

5. カメラとパソコンの接続を解除し、USB ケーブルをカメラとパソコンから外す

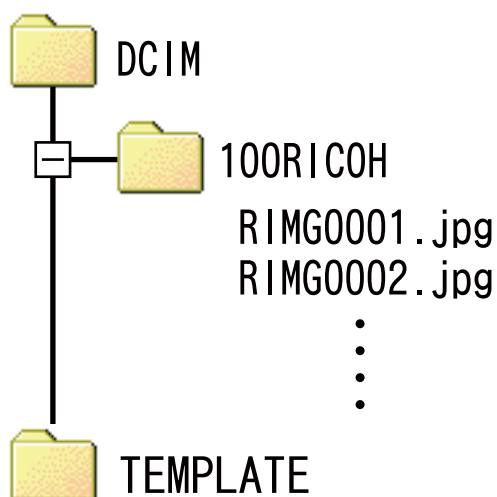
- カメラとパソコンの接続を解除する方法は P.9 を参照してください。
- 正しく接続を解除しないと、カメラメモリストファイルが保存されない場合があります。
- この後カメラの電源をオンにすると、カメラメモリストを使用できます。

カードリーダーで転送する

カードリーダーを使うと、パソコンから直接 SD メモリーカードにカメラメモリストファイルを転送して保存できます。

カメラメモリストファイルは、SD メモリーカード内の［TEMPLATE］フォルダに保存してください。［TEMPLATE］フォルダは、SD メモリーカードをカメラで初期化すると、自動的に作成されます。

カメラメモリストファイルを SD メモリーカードから削除するには

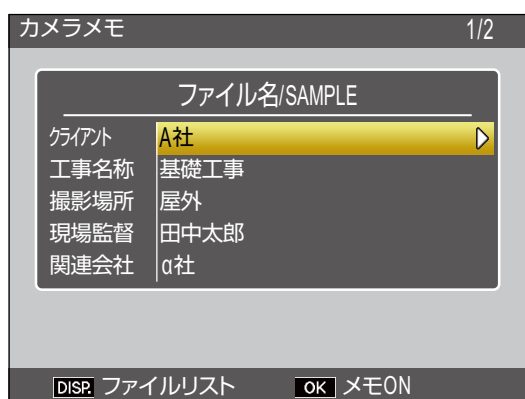
カメラメモリストファイルを SD メモリーカードから削除したい場合は、パソコン上で SD メモリーカードまたは内蔵メモリー内の［TEMPLATE］フォルダから *.mta ファイルを削除してください。カメラのセットアップメニューからカードの初期化を行っても、カメラメモリストファイルは削除されません。

Section 3
カメラメモを付ける

カメラメモ付き画像を撮影する

事前に、カメラメモリストファイルが SD メモリーカードまたは内蔵メモリーに転送されていることを確認してください。

カメラメモ付き撮影をする

1. **/CALS モードで ADJ./MEMO ボタンを押す**

- ［カメラメモ］画面が表示されます。

- カメラメモリストファイルが複数存在する場合、前回使用したカメラメモリストファイルが表示されます。
- ［カメラメモ］画面が表示されている間でも、シャッターボタンを押して撮影することができます。

2. **カメラメモの内容を設定する**

- 各分類項目とカメラメモ内容の組み合わせを設定します。
- カメラメモメニューの［カメラメモモード］で選択した設定によって、カメラメモの設定方法が変わります。モードごとのカメラメモ設定方法については、P.28 を参照してください。

3. **MENU/OK ボタンを押してカメラメモを確定する**

4. **シャッターボタンを押して撮影する**

複数のカメラメモファイルがある場合

［カメラメモ］画面で DISP. ボタンを押すと、カメラメモリスト選択画面が表示されます。▲▼ ボタンを押してカメラメモリストファイルを選択し、MENU/OK ボタンを押してください。

メモ

- カメラメモメニューの［撮影メモ起動］を［ON］に設定している場合、カメラを起動すると自動的に［カメラメモ］画面が表示されます。
- カメラメモリストファイルがカメラに保存されている場合、常に静止画にカメラメモが付加されます。
- カメラメモを静止画に付加したくない場合は、カメラメモリストファイルをカメラから削除してください。カメラメモリストファイルを SD メモリーカードから削除したい場合は、パソコン上で SD メモリーカードまたは内蔵メモリー内の［TEMPLATE］フォルダから *.mta ファイルを削除してください。カメラのセットアップメニューからカードの初期化を行っても、カメラメモリストファイルは削除されません。
- カメラメモリストのファイル名は、日本語と ASCII 文字のみ表示可能です。

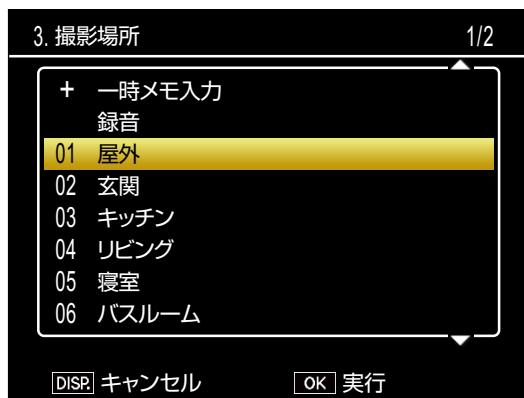
カメラメモを設定する

［カメラメモ］画面では、カメラメモの内容を設定できます。変更方法はカメラメモメニューの［カメラメモモード］で選択した設定によって異なります。

［MODE1］を選択した場合

［カメラメモ］画面で、各分類項目のカメラメモ内容を設定することができます。

1. ［カメラメモ］画面で ▲▼ ボタンを押して、分類項目を選択する

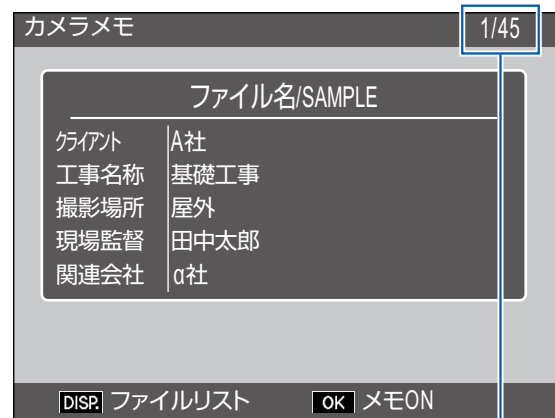
2. ▶ ボタンを押して、カメラメモ内容の一覧画面を表示する

3. ▲▼ ボタンを押してカメラメモ内容を選択し、MENU/OK ボタンを押す

メモ

- カメラメモ内容一覧の最後に、［未設定］の項目があります。［未設定］を選択すると、その分類項目のカメラメモ内容を［未設定］として設定できます。
- カメラメモメニューの［メモ内容警告］を［ON］に設定している場合、［未設定］に設定している分類項目があると、シャッターボタンを押した際に警告画面が表示され、撮影ができなくなります。すべての分類項目でカメラメモ内容を設定してください。
- カメラメモメニューの［カメラメモ 1 自動消去］を［ON］に設定している場合、静止画の撮影後などに 1 番目の分類項目が自動的に［未設定］に変更されます。1 番目の分類項目のカメラメモ内容を設定すると撮影できます。

4. 手順 1 ～ 3 を繰り返して、分類項目ごとにカメラメモ内容を設定する

［MODE2］を選択した場合

はじめてカメラメモを使用する場合、［カメラメモ］画面には、各分類項目の 1 番目のカメラメモ内容が選択されています。▶ ボタンを押すたびに、各分類項目の 2 番目、3 番目…のカメラメモ内容が選択されます。◀ ボタンを押すと、1 つ前の組み合わせに戻ります。

［現在の組み合わせ／総組み合わせ数］を表します。この場合、現在は 1 番目の組み合わせが表示されていることを示しています。

▲▼ ボタンを押すと、表示される分類項目が変更されます。［MODE2］の場合、各分類項目のカメラメモ内容を個別に変更することはできません。

メモ

カメラメモメニューの［メモ送りスキップ］で［項目 1］～［項目 5］を設定すると、設定した分類項目内の同じカメラメモ内容を ◀▶ ボタンの長押しでスキップできます。以下のようなカメラメモで、［項目 1］を設定すると下記のようにスキップします。

分類項目	カメラメモ内容 1	カメラメモ内容 2	カメラメモ内容 3	カメラメモ内容 4
項目 1	A	A	A	B

［メモ送りスキップ］の［項目 1］～［項目 5］は、カメラメモリストファイルの上から 1 番目～ 5 番目の分類項目に対応します。

静止画に付加したカメラメモを再生する

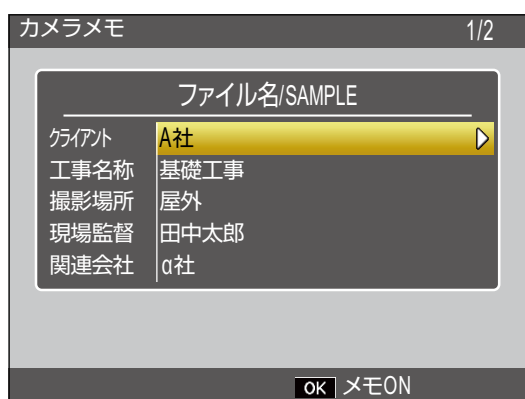
カメラメモを付加した静止画のカメラメモを再生して確認できます。再生時にカメラメモ内容を変更することもできます。

注意

- カメラメモを変更できるのは、カメラメモメニューの［カメラメモモード］で［MODE1］を選択している場合のみです。［MODE2］を選択している場合、再生時に DISP. ボタンを押して画面表示を切り替えたときに表示されるカメラメモ画面で確認のみできます。
- 静止画に付加したカメラメモは削除できません。

カメラメモを再生する

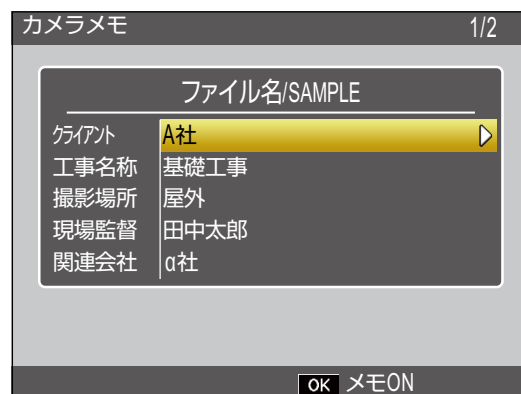
1. **再生モードでカメラメモ付きの静止画を選択し、ADJ./MEMO ボタンを押す**

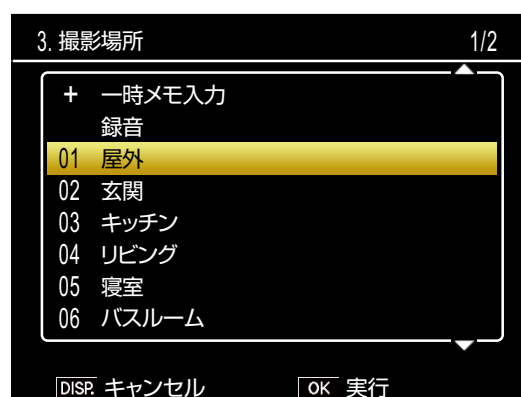
- カメラメモを付加した静止画には MEMO アイコンが表示されています。
- ［カメラメモ］画面が表示され、静止画に付加したカメラメモを確認できます。

2. **▲▼ ボタンを押して分類項目を表示する**

3. **MENU/OK ボタンを押す**

［カメラメモ］画面が消え、静止画が表示されます。

カメラメモを変更する

1. **再生モードでカメラメモ付きの静止画を選択し、ADJ./MEMO ボタンを押す**

2. **▲▼ ボタンを押して分類項目を選択する**

3. **▶ ボタンを押して、カメラメモ内容の一覧画面を表示する**

4. **▲▼ ボタンを押してカメラメモ内容を選択し、MENU/OK ボタンを押す**

カメラメモ内容が変更され、［カメラメモ］画面に戻ります。

5. **MENU/OK ボタンを押す**

［カメラメモ］画面が消え、静止画が表示されます。

カメラメモ内容の値を一時的に変更する（一時メモ）

カメラメモ内容をカメラで作成し、静止画に付加することができます（一時メモ）。一時メモは各分類項目に 1 件ずつ登録できます。パソコンで登録したカメラメモ内容も一時的に修正できます。

一時メモの作成や修正は、撮影モードと再生モードのどちらでも行えます。

メモ

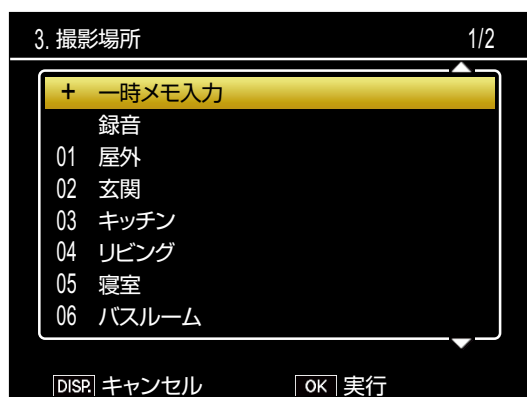
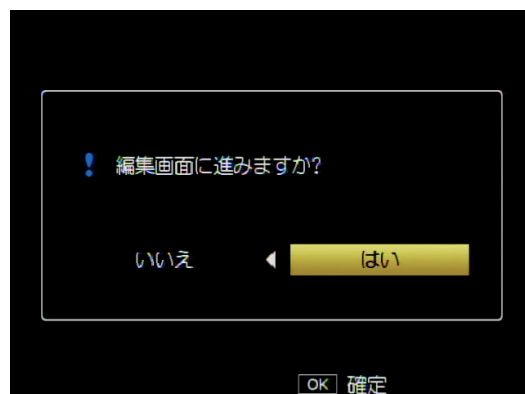
- 一時メモは、カメラリストファイルには保存されません。カメラの電源をオフにすると消去されます。
- 一時メモに使用できる文字は英数字です。
- バーコードデータを読み込んで一時メモとして登録することもできます（☞P.36）。
- 一時メモを使用できるのは、カメラメモメニューの［カメラメモモード］で［MODE1］が選択されている場合のみです。

一時メモを作成する

一時メモを新たに作成するには以下のように操作します。

1. **［カメラメモ］画面で ▲▼ ボタンを押して分類項目を選択し、▶ ボタンを押す**

カメラメモ内容一覧画面が表示されます。

2. **▲▼ ボタンを押して［一時メモ入力］を選択し、MENU/OK ボタンを押す**

3. **編集確認画面で ◀▶ ボタンを押して［はい］を選択し、MENU/OK ボタンを押す**

キーボード画面が表示されます。

4. **キーボードを使ってメモを入力する**

キーボードの使い方は P.49 を参照してください。

5. **入力が完了したら、ADJ./MEMO ボタンを押す**

- カメラメモ内容一覧画面に戻ります。
- カメラメモ内容一覧画面で DISP. ボタンを押すと、一時メモの選択をキャンセルして以前に選択されていたカメラメモ内容が選択されます。

6. **▲▼ ボタンを押して一時メモをカメラメモ内容として選択し、MENU/OK ボタンを押す**

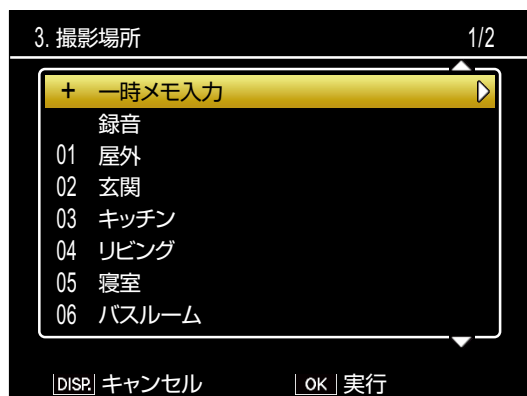
一時メモを他の分類項目でも作成したい場合は、手順 1 ～ 5 を繰り返します。

一時メモを編集する

作成した一時メモを編集するには以下のように操作します。

1. ［カメラメモ］画面で ▲▼ ボタンを押して編集したい一時メモがある分類項目を選択し、▶ ボタンを押す

カメラメモ内容一覧画面が表示されます。

2. ▲▼ ボタンを押して一時メモ（+ の付いた項目）を選択する

一時メモを作成した際に入力した文字列が表示されています。

3. ▶ ボタンを押す

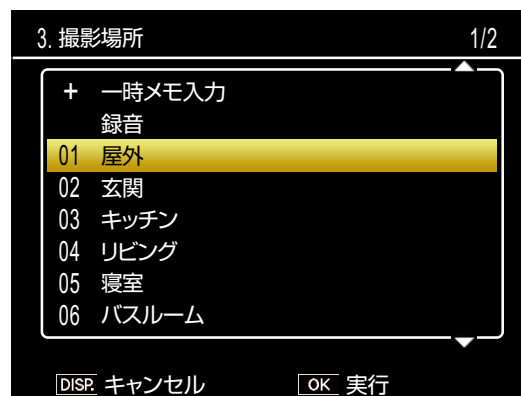
編集確認画面が表示されます。この後の手順は「一時メモを作成する」の手順 3 以降を参照してください。

既存のカメラメモ内容を修正して一時メモを作成する

カメラメモリストファイルに登録されているカメラメモを修正して、一時メモを作成することができます。カメラメモを修正して一時メモを作成するには、以下のように操作します。

1. ［カメラメモ］画面で ▲▼ ボタンを押して分類項目を選択し、▶ ボタンを押す

カメラメモ内容一覧画面が表示されます。

2. ▲▼ ボタンを押してカメラメモ内容を選択する

3. ▶ ボタンを押す

編集確認画面が表示されます。この後の手順は「一時メモを作成する」の手順 3 以降を参照してください。

メモ

修正したカメラメモ内容は一時メモとして作成されます。元となるカメラメモ内容は変更されません。

カメラメモインクリメント機能を使用する

カメラメモ内容の最後に数字が入力されている場合、▲▼ボタンを押して数字を増加（インクリメント）または減少（デクリメント）できます。

注意

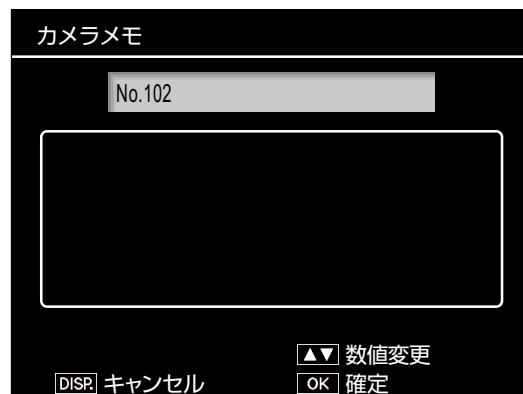
カメラメモインクリメント機能を使用できるのは、カメラメモメニューの［カメラメモモード］で［MODE1］を選択されている場合のみです。

カメラメモ内容でインクリメント機能を使用する

カメラメモリストファイルを作成する際に、カメラメモ内容として末尾に任意の数字を入力した項目を作成し、カメラに転送してください。

1. **カメラメモメニューの［カメラメモインクリメント］を［ON］に設定する**

2. **［カメラメモ］画面で▲▼ボタンを押して分類項目を選択し、▶ボタンを押す**

3. **▲▼ボタンを押して数字が入力されているカメラメモ内容を選択し、▶ボタンを押す**
   - カメラメモインクリメント画面が表示されます。

   - 末尾が数字ではないカメラメモ内容を選んで▶ボタンを押すと、警告音が鳴ります。

4. **▲▼ボタンを押して数値を変更する**
   - ▲ボタンで数値が増加します。
   - ▼ボタンで数値が減少します。

5. **MENU/OKボタンを2回押す**

   撮影画面に戻ります。撮影すると、インクリメントまたはデクリメントされた値が静止画に記録されます。

メモ

インクリメントまたはデクリメントした結果の値は、一時メモとして保存されます。カメラメモリストファイル作成時に入力したカメラメモ内容は、変更されずにそのまま残ります。

一時メモでインクリメント機能を使用する

カメラメモインクリメントは、一時メモでも使用できます。

1. 一時メモとして、任意の数値を入力する

一時メモの作成方法は P.30 を参照してください。

2. カメラメモメニューの［カメラメモインクリメント］を［ON］に設定する

3. ［カメラメモ］画面で、手順 1 で一時メモを作成した分類項目を選択し、▶ボタンを押す

4. ▲▼ボタンを押して一時メモ（+ の付いた項目）を選択し、▶ボタンを押す

カメラメモインクリメント画面が表示されます。

5. ▲▼ボタンを押して数値を変更する

- ▲ボタンで数値が増加します。
- ▼ボタンで数値が減少します。

6. MENU/OK ボタンを 2 回押す

撮影画面に戻ります。撮影すると、インクリメントまたはデクリメントされた値が静止画に記録されます。

音声メモを使用する

音声を録音してカメラメモに付加できます（音声メモ）。音声メモは各分類項目に 1 つずつ、最大 30 秒間録音できます。

音声メモの録音や修正は、撮影モードと再生モードのどちらでも行えます。

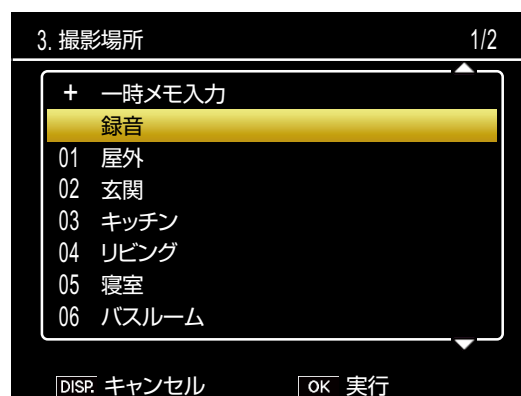
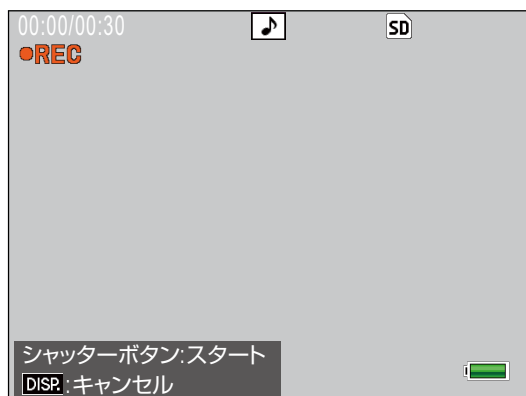
メモ

- カメラメモに登録した音声メモは、カメラの電源をオフにすると消去されます。撮影した静止画に付加した音声メモは、カメラの電源をオフにしても保持されています。
- 付属ソフトウェア ME1 で音声メモを付加した静止画を表示すると、パソコンで音声メモを再生できます。

音声メモを録音する

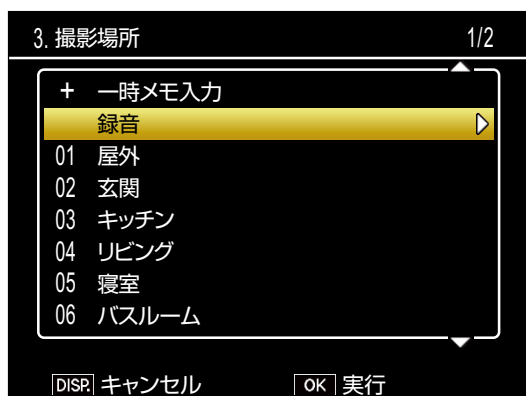
1. ［カメラメモ］画面で▲▼ボタンを押して分類項目を選択し、▶ボタンを押す

カメラメモ内容一覧画面が表示されます。

2. ▲▼ボタンを押して［録音］を選択する

3. MENU/OK ボタンを押す

- 録音画面が表示されます。
- DISP. ボタンを押すと、カメラメモ内容一覧画面に戻ります。

4. シャッターボタンを押す

録音を開始します。

5. シャッターボタンを半押しして録音を終了する

- カメラメモ内容一覧画面に戻ります。
- シャッターボタンを半押ししなくても、30 秒間経過すると自動的に録音を終了します。
- 音声メモが付加されると、［録音］（再生モードの場合は［再生］に表示が変更されます）の右側に ▶ マークが付きます。

6. MENU/OK ボタンを押す

音声メモが付加された分類項目には、カメラメモ内容表示部分に 🔊 マークが表示されます。

メモ

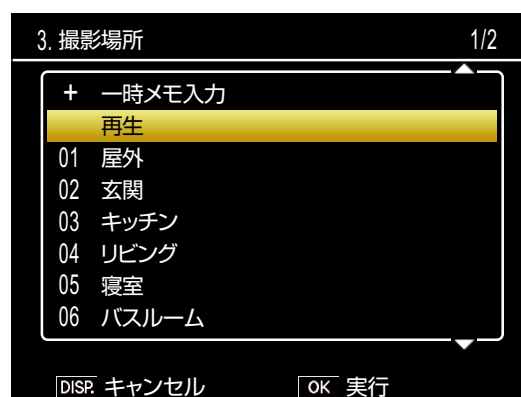
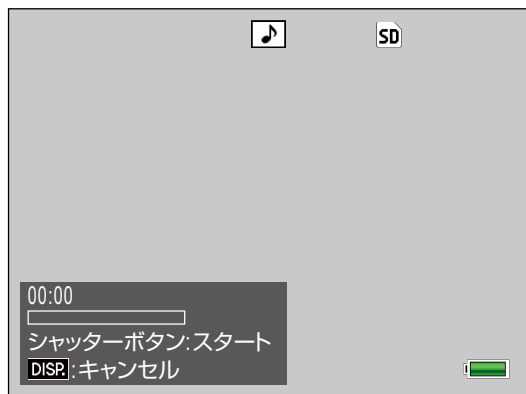
- 音源からマイクまでの距離は、20cm 以内にしてください。
- マイク穴を指でふさがないように注意してください。
- 二次元バーコードを読み込む場合、音声メモは使用できません。その場合、カメラメモ内容一覧画面に［録音］の項目は表示されません。

音声メモを再生する

音声メモは再生モードでのみ再生できます。

1. ［カメラメモ］画面で ▲▼ ボタンを押して音声メモを付加した分類項目を選択し、▶ ボタンを押す

カメラメモ内容一覧画面が表示されます。

2. ▲▼ ボタンを押して［再生］を選択する

3. ▶ ボタンを押す

再生画面が表示されます。

4. シャッターボタンを押す

再生を開始します。

5. シャッターボタンを半押しして再生を終了する

- 録音し直すかを確認する画面が表示されます。
- シャッターボタンを半押ししなくても、音声メモを最後まで再生すると確認画面が表示されます。

6. [はい] または [いいえ] を選択して MENU/OK ボタンを押す

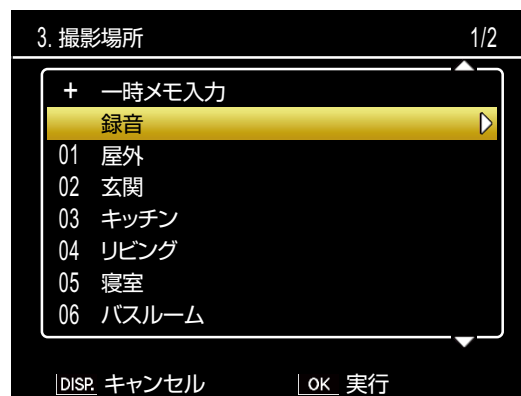
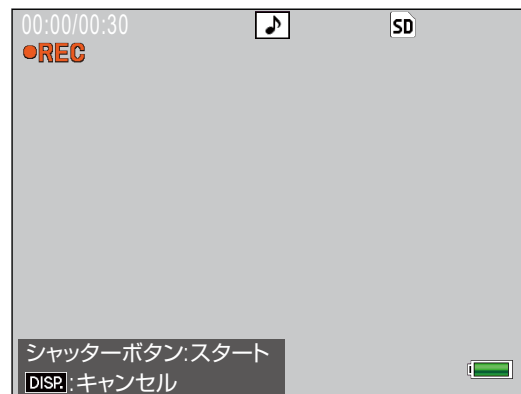
- 録音し直す場合は [はい]、このまま再生を終了する場合は [いいえ] を選択します。
- [はい] を選択すると、録音画面が表示されます。この後の手順は「音声メモを録音する」の手順3以降を参照してください。
- [いいえ] を選択すると、カメラメモ内容一覧画面に戻ります。

音声メモを変更する

撮影モードで音声メモを変更するには、以下のように操作します。

1. [カメラメモ] 画面で ▲▼ ボタンを押して分類項目を選択し、▶ ボタンを押す

カメラメモ内容一覧画面が表示されます。

2. ▲▼ ボタンを押して [録音] を選択する

3. ▶ ボタンを押す

録音画面が表示されます。この後の手順は「音声メモを録音する」の手順 3 以降を参照してください。

バーコードデータを一時メモに登録する

カメラでバーコードデータを読み込み、一時メモとして登録できます。バーコードデータの登録は、撮影モードと再生モードのどちらでも行えます。

メモ

- バーコードデータは一次元または二次元バーコードを読み込めます。読み込むバーコードの種類は、カメラメモメニューの［バーコード種類］で設定します。
- 一次元バーコードは最大 32 桁、二次元バーコードは最大 2400 桁まで読み取れます。
- 二次元バーコードを読み込む場合、音声メモは使用できません。その場合、カメラメモ内容一覧画面に［録音］の項目は表示されません。

バーコードデータの登録方法を設定する

バーコードデータを読み取る前に、カメラメモのどの項目にバーコードデータを登録するかをカメラメモメニューの［バーコードモード］で設定します。

MODE1	カメラメモリストの 1 番目の分類項目に、一時メモとしてバーコードデータが登録されます。バーコードデータを読み取るたびに、データが上書きされます。
MODE2	カメラメモリストの 1 番目から 4 番目の分類項目に、一時メモとしてバーコードデータを登録できます。バーコードデータをはじめて読み取る場合は、自動的に 1 番目の分類項目から順に登録されます。すでにバーコードが登録されている分類項目にバーコードを読み取った場合は、データが上書きされます。
MODE3	撮影モードのときのみ有効です。カメラメモリストの 1 番目の分類項目に、一時メモとして最大 50 個までバーコードデータを登録できます。撮影前、読み取ったバーコードデータはカメラメモ一覧画面で確認はできますが、編集はできません。バーコードデータは静止画の撮影後、削除されます。

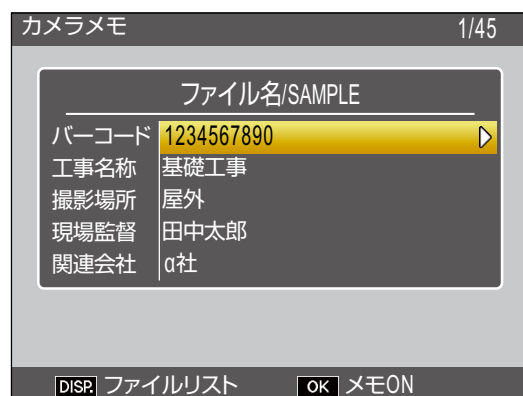
バーコードデータの読み取り / 登録をする

撮影モードの場合

1. ADJ./MEMO ボタンを押す

［カメラメモ］画面が表示されます。

2. 読み取りたいバーコードデータにカメラを向け、◀ ボタンを押す

- カメラがマクロモードに切り替わり、バーコードデータの読み取りを開始します。読み取りが完了すると、［カメラメモ］画面の 1 番目の分類項目に、一時メモとしてバーコードデータが登録されます。

- 読み取りに失敗した場合、または読み取り中にキャンセルしたい場合は、▶ ボタンまたは DISP. ボタンを押すと、［カメラメモ］画面に戻ります。◀ ボタンを押すと、再度読み取りを行います。
- 読み取ったバーコードデータに ASCII コード以外の文字データがある場合、「*」（アスタリスク）に置換されます。

3. ［バーコードモード］を［MODE2］または［MODE3］に設定している場合は、手順 2 を繰り返してバーコードをすべて読み取る

4. MENU/OK ボタンを押して、カメラメモを確定する

- この後シャッターボタンを押して撮影すると、静止画にカメラメモが付加されます。
- ［バーコードモード］を［MODE3］に設定しているときに読み取ったバーコードを削除したい場合は、［カメラメモ］画面で ▲▼ ボタンを押して 1 番目の分類項目を選び、▶ ボタンを押します。カメラメモ内容一覧画面で ▲▼ ボタンを押して［未設定］を選び、MENU/OK を押します。

再生モードの場合

1. バーコードデータを登録したい静止画を表示する

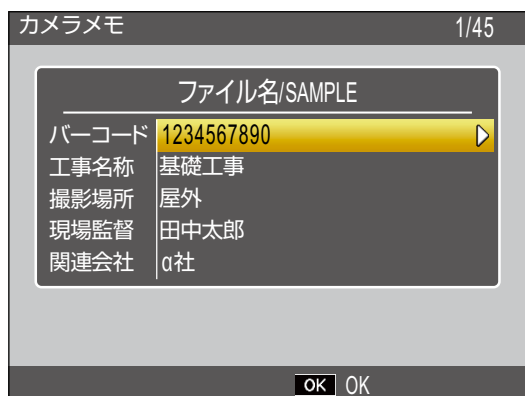
2. ADJ./MEMO ボタンを押す

［カメラメモ］画面が表示されます。

3. ◀ ボタンを押す

バーコードデータが読み取り可能になります。

4. 読み取りたいバーコードデータにカメラを向け、◀ ボタンを押す

- カメラがマクロモードに切り替わり、バーコードデータの読み取りを開始します。読み取りが完了すると、［カメラメモ］画面の 1 番目の分類項目に、一時メモとしてバーコードデータが登録されます。

- 読み取りに失敗した場合、または読み取り中にキャンセルしたい場合は、▶ ボタンまたは DISP. ボタンを押すと、［カメラメモ］画面に戻ります。◀ ボタンを押すと、再度読み取りを行います。
- 読み取ったバーコードデータに ASCII コード以外の文字データがある場合、「*」（アスタリスク）に置換されます。

5. ［バーコードモード］を［MODE2］に設定している場合は、手順 4 を繰り返してバーコードをすべて読み取る

6. MENU/OK ボタンを押して、カメラメモを確定する

7. MENU/OK ボタンを押す

静止画にカメラメモが付加されます。

注意

- 同じバーコードデータを複数回読み取ることはできません。
- バーコードデータを読み込んでから、撮影またはモード切り替えを行い、再度バーコードデータを読み取ると、事前に読み込んでいたバーコードデータが上書きされます。
- バーコードデータを読み取る前にカメラメモを修正した場合、バーコードの読み取りに失敗すると、読み取り前の修正内容は保持されません。ただし、音声メモは保持されます。

メモ

- 一時メモとして登録したバーコードデータを修正することができます（☞P.31）。
- バーコードデータを読み取るまでの最大時間は、カメラメモメニューの［読み取り時間］で設定できます。

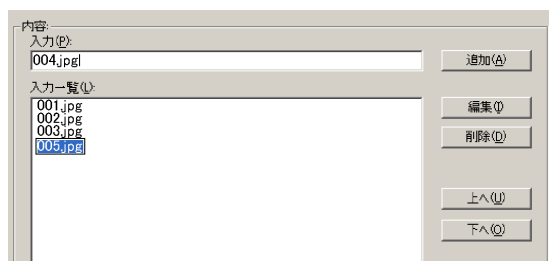
カメラメモに関連する画像を設定する

カメラメモリスト作成時に、カメラメモ内容として画像ファイル名を指定すると、その静止画を画像メモとして設定できます。関連画像は、あらかじめカメラまたはSDメモリーカードにコピーしておく必要があります。

注意

- 画像メモは、カメラメモメニューの［カメラメモモード］が［MODE2］に設定されている場合のみ表示できます。
- カメラメモ内容とファイル名が一致する静止画がSDメモリーカードにも内蔵メモリーにもない場合は、ADJ./MEMOボタンを押しても関連画像は表示されません。

関連画像の準備をする

1. 付属ソフトウェア List Editor で、カメラメモ内容として関連画像のファイル名を入力する

- List Editorの使用方法はP.23を参照してください。

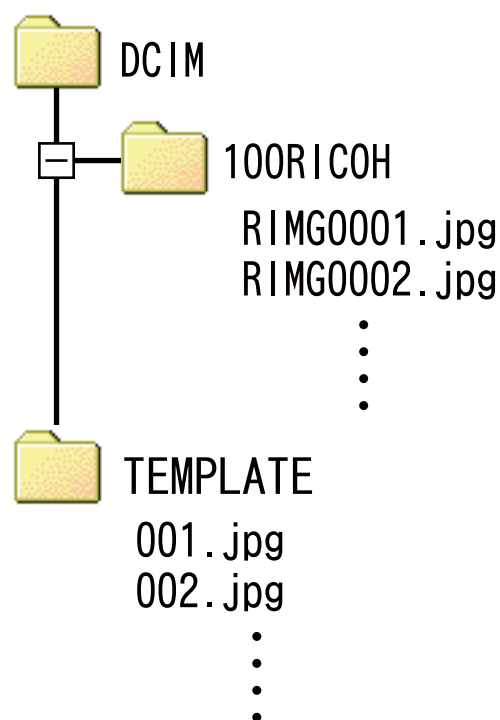
注意

- 関連画像は、カメラメモリストファイルの最後の分類項目に設定してください。途中の分類項目に設定しても、関連画像として認識されません。
- 拡張子は「.jpg」と記述してください。

2. カメラとパソコンを接続する

カメラとパソコンの接続方法については、「DL-10を使用せずに画像を取り込む」（☞P.6）を参照してください。

3. 関連画像をカメラに保存する

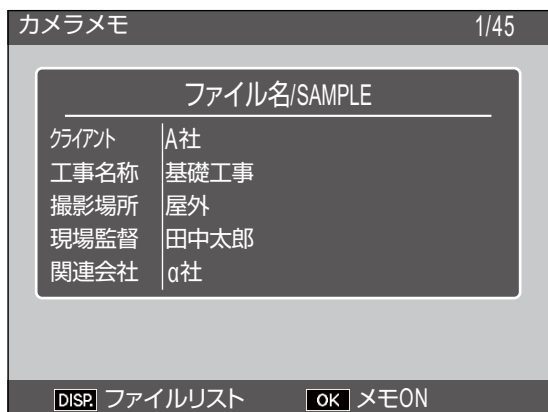
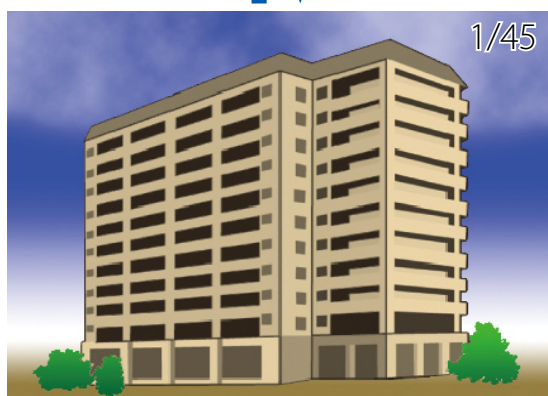
カメラのSDメモリーカードまたは内蔵メモリーの「TEMPLATE」フォルダに関連画像を保存します。

メモ

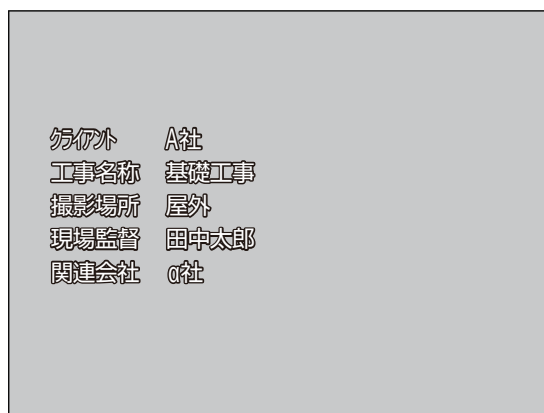
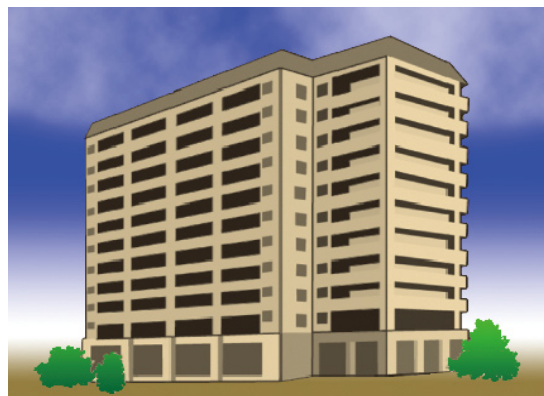
関連画像には、以下の条件をすべて満たす静止画が使用できます。

- JPEG画像
- 幅32 ×高さ32ピクセル以上、幅4000 ×高さ3000ピクセル以下
- 色空間 YCbCr 4:2:2 または 4:2:0
- 色空間 YCbCr 4:2:2 の場合、幅のピクセル数が16の倍数、高さのピクセル数が8の倍数のサイズ
- 色空間 YCbCr 4:2:0 の場合、幅と高さのピクセル数が16の倍数のサイズ
- ファイル容量が12MB以下

関連画像を表示する

撮影モードの場合

［カメラメモ］画面で ADJ./MEMO ボタンを押すと、関連画像が表示されます。再度 ADJ./MEMO ボタンを押すと、［カメラメモ］画面に戻ります。

再生モードの場合

カメラメモで関連画像を設定した静止画を再生して ADJ./MEMO ボタンを押すと、関連画像が表示されます。

関連画像表示時に ▲▼◀▶ ボタンを押すと、再生画面に戻ってファイルが切り替わります。

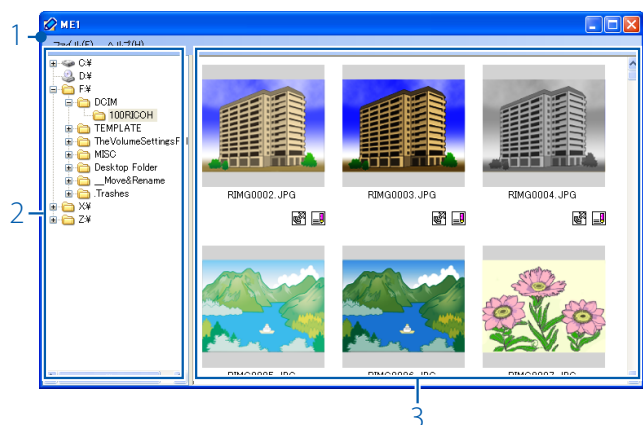
注意

カメラメモ内容とファイル名が一致する静止画が SD メモリーカードにも内蔵メモリーにもない場合は、ADJ./MEMO ボタンを押しても関連画像は表示されません。

Section 4
パソコンでカメラメモを表示・編集する

ME1 を使用する

パソコンに取り込んだ静止画を、付属のソフトウェア ME1 で表示すると、付加したカメラメモを表示したり編集したりできます。音声メモがある場合は、音声メモを再生することもできます。ME1 を起動するには、Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［DC Software］→［ME1］を選択します。

ME1 画面の見方

項目		説明
1	メニューバー	静止画の印刷や一枚表示ができます。
2	フォルダ表示欄	パソコン上のフォルダを一覧表示しています。フォルダをクリックすると、フォルダ内に保存されている静止画が画像サムネイル表示欄に表示されます。
3	画像サムネイル表示欄	選択したフォルダ内の静止画を表示します。サムネイルをダブルクリックすると、静止画が 1 枚表示されます。 **GPS アイコン** 静止画に GPS データが付加されている場合、アイコンをダブルクリックすると、GPS データが表示されます。 **カメラメモアイコン** 静止画にカメラメモが付加されている場合、アイコンをダブルクリックすると、カメラメモ編集画面が表示されます。

メモ

GPS データやカメラメモが付加されていない静止画の場合、GPS アイコンやカメラメモアイコンはモノクロで表示され、クリックできません。

カメラメモを編集する

ME1 のサムネイル表示欄にあるカメラメモアイコン（ ）をダブルクリックすると、カメラメモの編集画面が表示されます。

項目		説明
1	項目	分類項目を表示します。
2	音声メモアイコン	音声メモが付加された分類項目の場合、音声メモアイコンが赤く表示されます。
3	メモ	カメラメモ内容が表示されます。
4	［音声再生］ボタン	音声メモが付加された分類項目の場合、クリックして音声メモを再生できます。
5	カメラメモ編集	［一覧表示］の欄で選択した「項目」（分類項目）や「メモ」（カメラメモ内容）が表示されます。文字を入力してカメラメモを修正できます。文字列「¥、/、:、?、*、"、<、>、|」は入力できません。
6	［適用］ボタン	［メモ編集］で入力した文字列をカメラメモに適用します。
7	［保存］ボタン	修正したカメラメモを更新してカメラメモ編集画面を閉じます。
8	［キャンセル］ボタン	カメラメモ編集画面を閉じます。［適用］ボタンが押されていない場合は［メモ編集］の内容は反映されません。

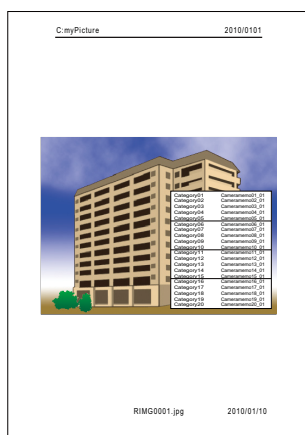
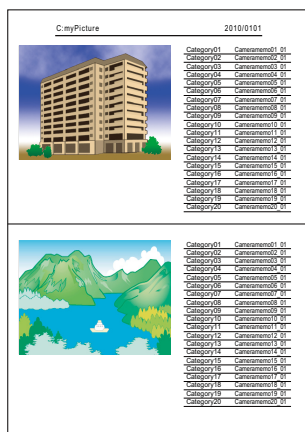
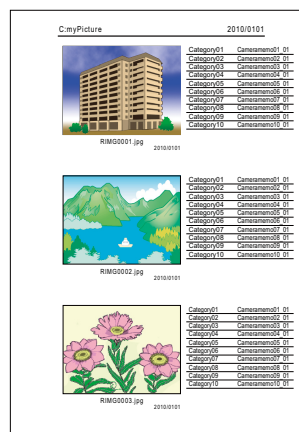
注意

フォルダ名の先頭または最後にスペースが使用されているフォルダを選択すると、フォルダ内の静止画は表示されません。フォルダ名を変更してください。

カメラメモ付きで静止画を印刷する

［ファイル］メニューの［印刷］を選択すると、付加したカメラメモと一緒に静止画を印刷できます。印刷する形態は［ファイル］メニューの［印刷設定］で選択できます。

印刷例：

- A4 用紙に静止画 1 枚、カメラメモを付加

- A4 用紙に静止画 2 枚、カメラメモを付加

- A4 用紙に静止画 3 枚、カメラメモを付加

メモ

- カメラメモを付加せずに印刷することもできます。
- 静止画 3 枚を 1 枚の用紙で印刷する場合、印刷設定によって印刷できるカメラメモの数が異なります。

Section 5
カメラメモを利用して分類する

EX1 を使用する

付属ソフトウェアの EX1 には、以下の機能があります。

1.カメラメモ内容を元にして静止画のファイル名をリネームし、任意のフォルダに転送できます。ファイル名でカメラメモの内容を把握できます。

2.カメラメモの情報を、CSV 形式、XML 形式、TXT 形式で書き出せます。

EX1 にはサーバー用（EX1 for Server）とクライアント用（EX1 for Client）の 2 種類があります。EX1 for Server は、設定した転送元フォルダを常に監視し、新しい画像が追加されると自動的に処理を実行します。EX1 for Client は、手動で処理を行います。

EX1 の操作の流れ

1. カメラメモ付きの画像をパソコンに取り込む（☞P.5）

DL-10 などを使用して、画像をパソコンに取り込みます。

2. 転送の設定を行う（☞P.43）

変換したいファイルがあるフォルダと、結果を保存するフォルダを設定します。

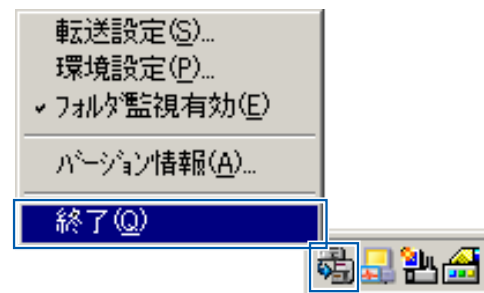
3. 処理を実行する

- EX1 for Server の場合、自動的に変換作業を行います（☞P.45）。
- EX1 for Client の場合、Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［EX1 for Client］→［転送］を選択して処理を開始します（☞P.45）。

EX1 の起動・終了方法

EX1 for Server

標準設定のままインストールすると、常駐ソフトとしてタスクバーに追加されます。

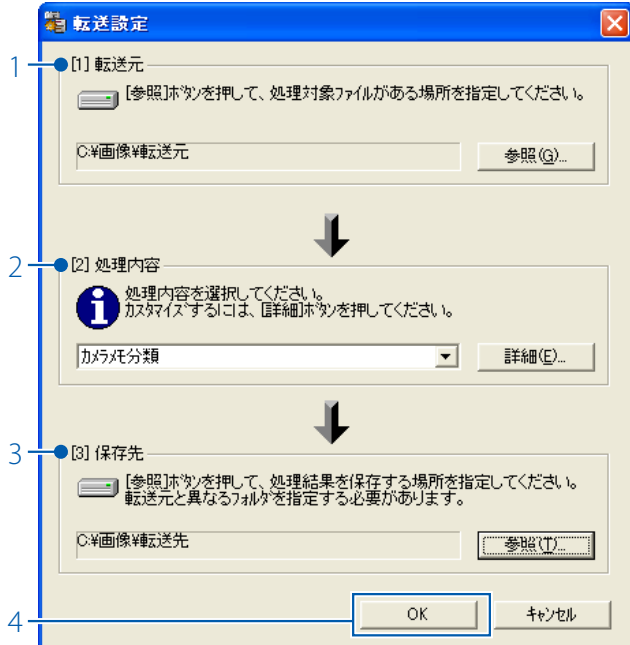
終了させるにはタスクバーのアイコンを右クリックし、［終了］を選択します。

終了後、再度起動する場合は、Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［EX1 for Sever］を選択します。

EX1 for Client

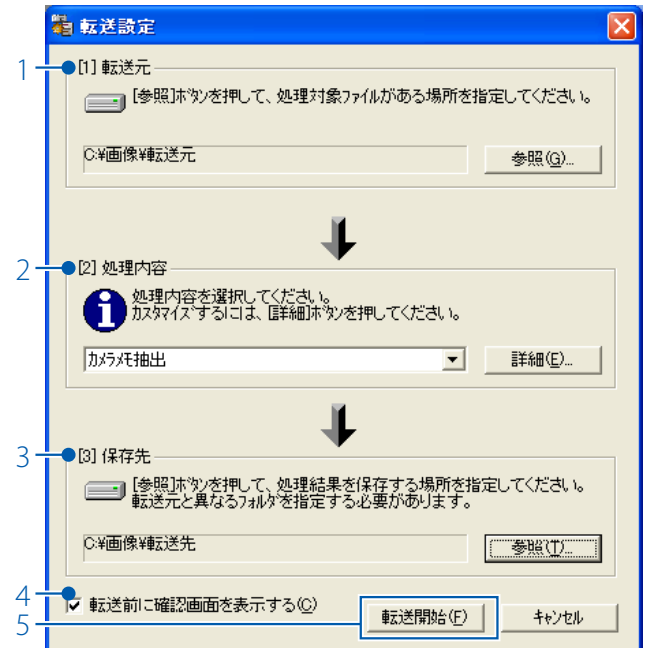
- 設定を行う場合は Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［EX1 for Client］→［設定］を選びます。
- 処理を実行する場合は Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［EX1 for Client］→［転送］を選びます。
- 転送設定画面を閉じるか、処理が終了すると自動的に終了します。

EX1 の転送設定方法

EX1 for Server の転送設定画面

タスクバーのアイコンを右クリックし、［転送設定］を選択します。

	項目	説明
1	転送元	［参照］ボタンを押して、監視したいフォルダを設定します。
2	処理内容	静止画に対する処理を選択できます。 **カメラメモ抽出** 静止画に付加されたカメラメモの内容に合わせて静止画のファイル名をリネームし、［保存先］で設定したフォルダに保存します。カメラメモの情報を CSV 形式、XML 形式、TXT 形式で書き出すこともできます。 **カメラメモ分類** ［保存先］で設定したフォルダに、静止画に付加したカメラメモの内容を元にしてフォルダを自動的に作成し、カメラメモ内容によって静止画を振り分けて転送します。 ［詳細］ボタンを押すと、選択した処理の詳細な内容を設定できます（☞P.44）。
3	保存先	［参照］ボタンを押して、処理を行った静止画の保存先を設定します。
4	［OK］ボタン	設定を保存して転送設定ダイアログを閉じます。

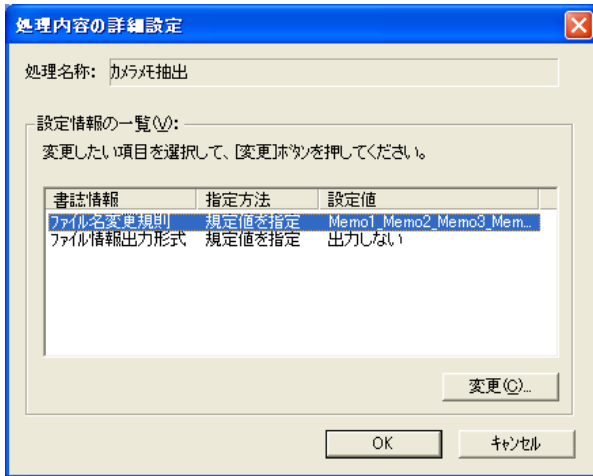
EX1 for Client の転送設定画面

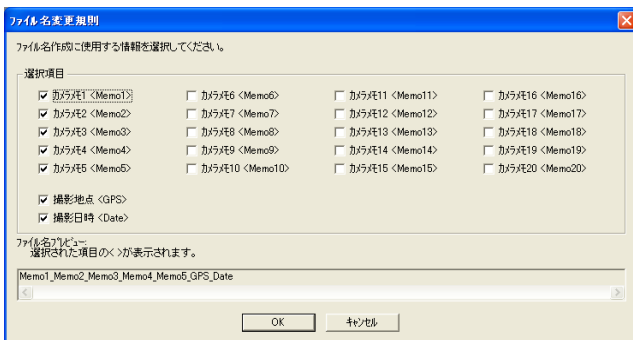
Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［EX1 for Client］→［設定］を選びます。

	項目	説明
1	転送元	［参照］ボタンを押して、分類して転送したい静止画が保存されているフォルダを設定します。
2	処理内容	静止画に対する処理を選択できます。詳しくは EX1 for Server の説明を参照してください。
3	保存先	［参照］ボタンを押して、処理を行った静止画の保存先を設定します。
4	［転送前に確認画面を表示する］	チェックを入れると、転送実行前に確認ダイアログが表示されます（☞P.45）。
5	［OK］ボタン	処理を開始して静止画を転送します。転送されると元のファイルは削除されます。初回起動時のみ［転送開始］と表示されます。

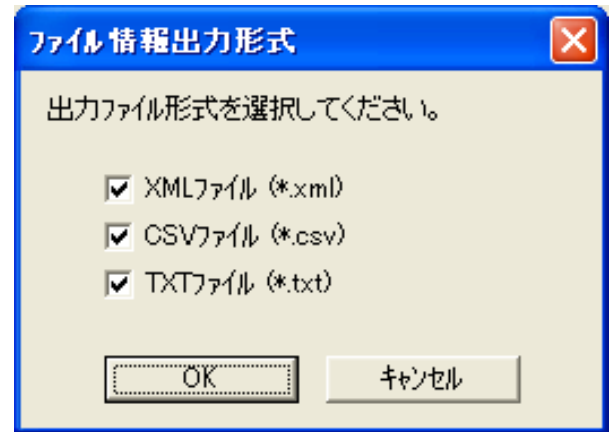
メモ

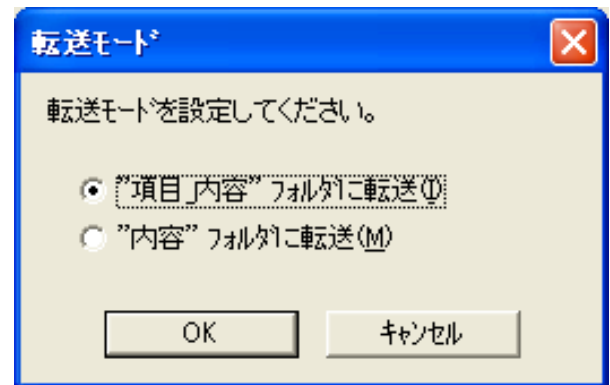
［処理内容］を［カメラメモ抽出］に設定している場合に、カメラメモ内に禁則文字（¥、/、:、?、*、"、<、>、|）が使用されていると、禁則文字を「_」（アンダーバー）に置換した名前のフォルダが作成されます。

[処理内容] で [詳細] ボタンを押した場合

[処理内容の詳細設定] ダイアログが表示されます。

[設定情報の一覧] に表示される項目は、[処理内容] で選択した項目により異なります。項目を選んで [変更] ボタンを押すと、それぞれの設定ダイアログが表示されます。

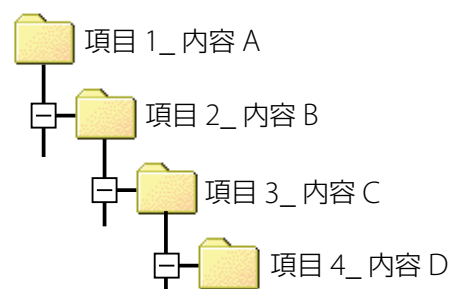
カメラメモ抽出：[ファイル名変更規則] 設定ダイアログ

リネームするファイル名として使用するカメラメモの分類項目を設定します。分類項目は複数設定でき、「_」(アンダーバー) で区切られます。

カメラメモ抽出：[ファイル情報出力形式] 設定ダイアログ

選択したファイル形式でカメラメモの情報を書き出せます。何もチェックをしない場合、カメラメモの情報は出力されません。

カメラメモ分類：[転送モード] 設定ダイアログ

転送する際に作成するフォルダ名の形式を「項目 _ 内容」と「内容」から選択できます。

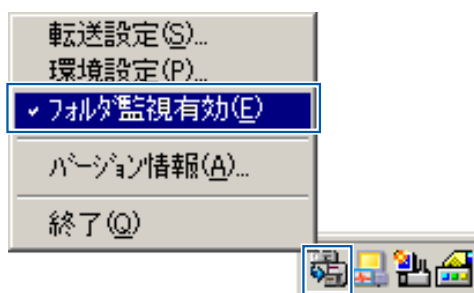
例：次のカメラメモを転送した場合

項目名	内容
項目 1	内容 A
項目 2	内容 B
項目 3	内容 C
項目 4	内容 D

「項目 _ 内容」のとき

処理の実行方法

EX1 for Server

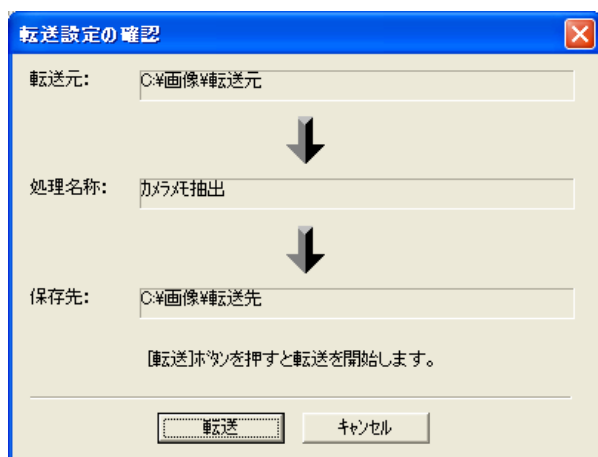
［フォルダ監視有効］にチェックを入れると、転送設定画面で設定した転送元フォルダを常に監視し、自動的に転送先フォルダに結果を書き出します。

転送したくない場合は、あらかじめチェックを外しておいてください。

注意

壊れたファイルなどが転送されるとメッセージが表示され、転送を中断します。

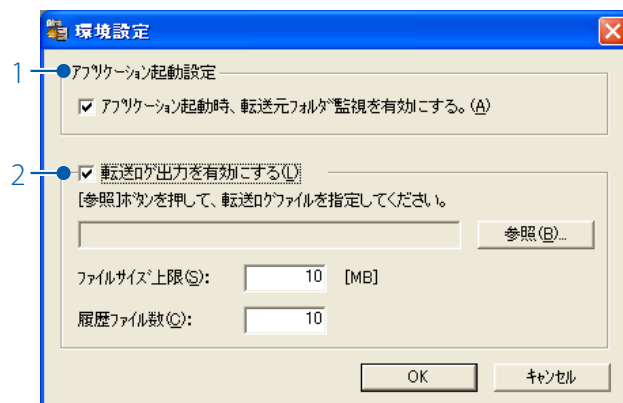
EX1 for Client

Windows の［スタート］メニューから、［すべてのプログラム］または［プログラム］→［EX1 for Client］→［転送］を選びます。

転送設定画面で［転送前に確認画面を表示する］にチェックを入れている場合、［転送設定の確認］ダイアログが表示されます。［転送］ボタンを押すと転送が開始されます。

メモ

転送されると元のファイルは削除されます。

環境設定について

サーバー用 EX1 でタスクバーのアイコンを右クリックし、［環境設定］を選択すると、環境設定ダイアログが表示されます。

	項目	説明
1	アプリケーション起動設定	EX1 を起動する際、転送元のフォルダ監視を有効にするかどうかを設定できます。
2	転送ログ出力を有効にする	転送結果の記録（ログ）を残すかどうかを設定できます。 **［参照］ボタン** 転送ログファイルの保存先を指定します。 **ファイルサイズ上限** ログファイルのファイルサイズの上限を指定します。 **履歴ファイル数** 転送したファイルの履歴をいくつ残すかを指定します。

ファイル情報について

［ファイル情報出力形式］で生成されるファイルには、以下の情報が含まれます。

例として、次のようなファイルを転送したときのそれぞれの情報ファイルを記します。

ファイルの情報：

項目	内容
撮影日	2010:10:10 00:00:00
GPS 情報	なし

カメラメモの内容：

分類項目	カメラメモ内容
項目 1	内容 A
項目 2	内容 B
項目 3	内容 C
項目 4	内容 D
項目 5	内容 E

XML 形式の場合

主なタグ名	内容
DateTimeOriginal	画像ファイルの撮影日
GPSLatitudeRef	緯度（N または S）
GPSLatitude	緯度（数値）
GPSLongitudeRef	経度（E または W）
GPSLatitude	経度（数値）
CameraMemo1 ～ CameraMemo5	分類項目とカメラメモ内容
MemoItem1 ～ MemoItem5	分類項目
MemoData1 ～ MemoData5	カメラメモ内容

```
<?xml version="1.0" encoding="Shift_JIS"?>
<Exif>
  <APP1>
    <Exif_IFD>
      <DateTimeOriginal>2010:10:10 00:00:00
      </DateTimeOriginal>
    </Exif_IFD>
    <GPS_IFD>
      <GPSLatitudeRef>N</GPSLatitudeRef>
      <GPSLatitude>00:00:00</GPSLatitude>
      <GPSLongitudeRef>E</GPSLongitudeRef>
      <GPSLongitude>00:00:00</GPSLongitude>
    </GPS_IFD>
  </APP1>
  <APP5>
    <CameraMemo1>
      <MemoItem1> 項目 1</MemoItem1>
      <MemoData1> 内容 A</MemoData1>
    </CameraMemo1>
    <CameraMemo2>
      <MemoItem2> 項目 2</MemoItem2>
      <MemoData2> 内容 B</MemoData2>
    </CameraMemo2>
    <CameraMemo3>
      <MemoItem3> 項目 3</MemoItem3>
      <MemoData3> 内容 C</MemoData3>
    </CameraMemo3>
    <CameraMemo4>
      <MemoItem4> 項目 4</MemoItem4>
      <MemoData4> 内容 D</MemoData4>
    </CameraMemo4>
    <CameraMemo5>
      <MemoItem5> 項目 5</MemoItem5>
      <MemoData5> 内容 E</MemoData5>
    </CameraMemo5>
  </APP5>
</Exif>
```

CSV 形式の場合

項目	内容
DateTimeOriginal	画像ファイルの撮影日
GPSLatitudeRef	緯度（N または S）
GPSLatitude	緯度（数値）
GPSLongitudeRef	経度（E または W）
GPSLatitude	経度（数値）
（カメラメモの分類項目、カメラメモ内容内容）	以下、カメラメモの分類項目とカメラメモ内容が入ります。

DateTimeOriginal,2010:10:10 00:00:00
GPSLatitudeRef,N
GPSLatitude,00:00:00
GPSLongitudeRef,E
GPSLatitude,00:00:00
項目 1, 内容 A
項目 2, 内容 B
項目 3, 内容 C
項目 4, 内容 D
項目 5, 内容 E

TXT 形式の場合

項目	内容
DateTimeOriginal	画像ファイルの撮影日
GPSLatitudeRef	緯度（N または S）
GPSLatitude	緯度（数値）
GPSLongitudeRef	経度（E または W）
GPSLatitude	経度（数値）
CameraMemo1 ～ CameraMemo5	各カメラメモの分類項目とカメラメモ内容

[DateTimeOriginal]
2010:10:10 00:00:00
[GPSLatitudeRef]
N
[GPSLatitude]
00:00:00
[GPSLongitudeRef]
E
[GPSLatitude]
00:00:00
[CameraMemo1]
項目 1
内容 A
[CameraMemo2]
項目 2
内容 B
[CameraMemo3]
項目 3
内容 C
[CameraMemo4]
項目 4
内容 D
[CameraMemo5]
項目 5
内容 E

付録

キーボードの使い方

キーボード画面は、次のように操作します。

1. ▲▼◀▶ ボタンで文字を選択し、MENU/OK ボタンで決定する

- 文字入力エリアのカーソルがある位置に文字が挿入されます。
- 文字を削除したい場合は、文字入力エリアで削除する文字にカーソルを移動してから、［Delete］を選びます。
- 🗑 ボタンを押すと、英数大文字と英数小文字が切り替えられます。
- 一時メモの場合、入力できる文字数は半角 32 文字（全角 16 文字）までです。カメラメモ内容を一時的に修正して使用する際に、パソコンで登録したカメラメモ内容に全角文字を使用している場合は文字数に注意してください。
- 文字入力をキャンセルする場合は、DISP. ボタンを押してください。

2. ADJ./MEMO ボタンを押して入力内容を確定する

文字入力が完了します。

お困りのときは

症状 1　画像の取り込みができないときには・・・

対処方法 1

USB ハブを経由してパソコンと接続している場合は、カメラが正常に認識されていない可能性が考えられます。
次のように USB ポートを変更してみてください。

- パソコン本体の USB ポートに直接つないでみます。
- ルート HUB が複数あれば、もう一方のポートに変更してみます。

なお、USB 以外のハブを使用している場合は、USB ハブを使用して接続し直してみてください。

対処方法 2

カメラの電池が消耗している可能性が考えられます。
カメラから画像を取り込むときは、十分に残量がある電池をセットしてください。または、AC アダプター（別売り）のご使用をお勧めします。

対処方法 3

パソコンのハードディスクの空き容量が足りない可能性が考えられます。
Windows の動作に必要な空き容量と、それに加えて画像ファイル取り込み先ドライブにカメラ側の SD メモリーカードと同じ容量以上の空き容量があることを確認してください。

症状 2　DL-10 の［オプション設定］で、［保存時、同じ画像は保存しない］にチェックを入れていても、同じ画像がパソコンに取り込まれてしまうときには・・・

対処方法

カメラの時計の設定が正しくない、もしくはカメラの時計情報がリセットされてしまっている可能性があります。
［保存時、同じ画像は保存しない］の機能を正しく働かせるには、カメラの時刻情報を正しく設定する必要があります。カメラの時計情報を正しく設定してください。

症状 3　カメラから取り込んだファイルをパソコン上で削除してしまったので、同じファイルを再度カメラから取り込もうとしたが、取り込むことができなかったときには・・・

対処方法

DL-10 の［オプション設定］で、［保存時、同じ画像は保存しない］にチェックマークが付いていると、一度取り込んだファイルはパソコンに取り込まれません。DL-10 の［オプション設定］で［保存時、同じ画像は保存しない］のチェックマークを外してください。

症状 4　カメラからパソコンに画像を取り込んでいると［保存に失敗しました］と表示されるときには・・・

対処方法

カメラを再生モードにして、［表示できないファイルです］と画面に表示されるファイルがないか確認してください。表示できないファイルがあった場合は、すべてのファイルをパソコンにバックアップ後、SD メモリーカード、または、内蔵メモリーから削除してください。
ファイルをバックアップするには、市販のカードリーダーで直接コピーするか、付属の USB ケーブルでカメラとパソコンを接続し、カメラの画像をすべてパソコンにコピーします。